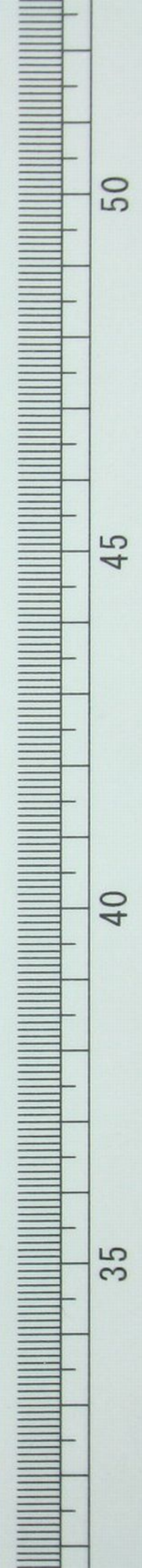


小倉文庫  
イ 16  
34







門 116  
號 334  
業

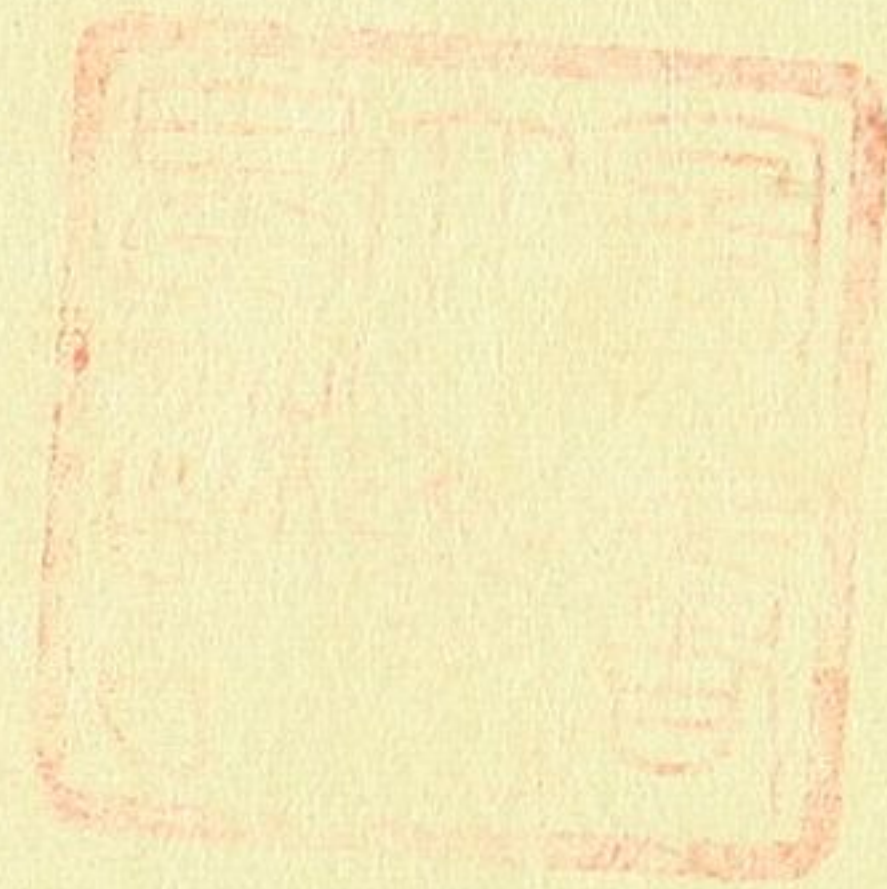
昭和二十七年  
六月二十一日  
受入



寛永十八年板  
塵劫記

遺題を載せ  
たる最初の版

下卷







新篇塵劫記下巻の四十二ヶ所の積  
 集とわけをば四のし違國ある勳の  
 在者必人をもとたてて世は傳へん  
 國家の重宝なる一又世は筆勳の  
 在者教人をもといはばなる一又一て其  
 勳者の位とよのつひの人の念を  
 ろるれは上科といふはむひの故其  
 勳者の位とたつ諸人の見まけんため  
 今け巻は法と除ておき知十二ヶ所を







けー一劫より久し四十里四方六面の粒ニ  
入る。けーの粒と二年よりけーの

天人の羽衣にて。まてうらり  
つらうらりと一劫と云



四十里

けーの粒

五百廿四埃

八千六十五

京四千七百

八十四兆

粒を

将棗のもん。同二ツ棗二つぶをて。次よ  
又二ツを。同しよ。一をいつよ。まてうらりよ

じん中よ。ゆりごも同

△棗四十京二千九百七十

五兆二千七百所二億

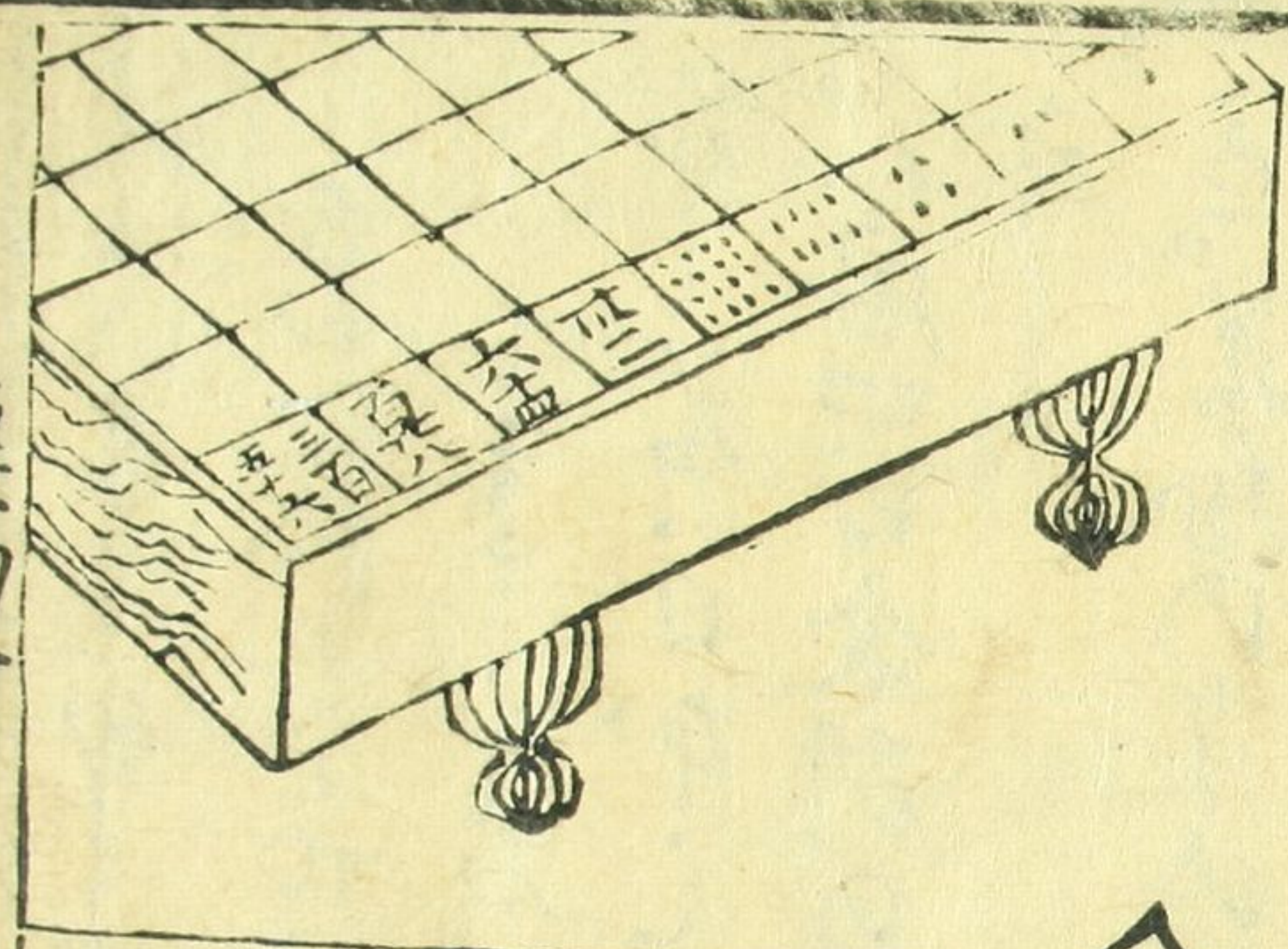
今四百八十七万六千三

百九十一石又計六車

八合七夕二才又此二粒也

これ日本国中のものなり

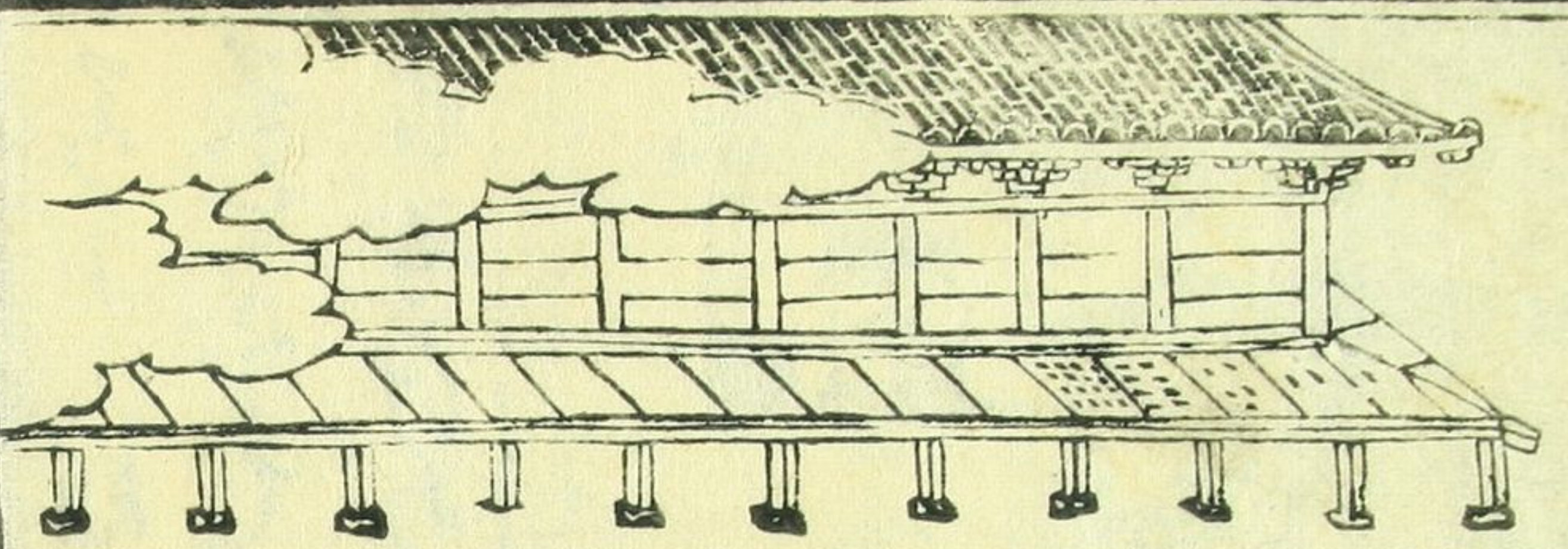
万万年にて。またねく











所三ヶ所の堂のまゝいそつふ  
玉<sup>かみ</sup>次のまゝいそつふ玉<sup>かみ</sup>の決は  
四つふ玉<sup>かみ</sup>めびまゝいそつふ  
まゝいそつふ三ヶ所ふ玉<sup>かみ</sup>の  
いそつふまゝいそつふ

答曰

食二千八百九石三斗  
又六

東より江戸まで百廿里の  
あひこよ積一斗たのこひよ  
あつていそつふまゝいそつふ  
とつ同

食二万千六百廿六

一里より百八十貫又  
一石より八十貫又





江戸より京まで乃わのひよ  
金一ふと二つさひよあへて  
みよかしくもさくと同

一ふの粒

合三千令六十三万二千七百

廿八あり

但一分乃長さ五分半にせ  
右ふ株よつりてい何程あると

同 答百四十石八斗二合

ニタマ



京より江戸まで百廿里のり  
けし一つぶさひよあへて  
さふり入ると同

け粒六億七千三百九十二万粒を

一石六斗八升八タテ

但一寸にけし四十粒

さふり入り

一殊ハ四百万粒入つ

け一億のさ

七十七里廿九町一畝三尺五寸





江戸より京まで百廿里のる  
 一り一人ツク立つものにして  
 人較るふがくわろし向

答曰

二千廿方九千二百人



金子一ぶと。ます。一珠よハあふほり入  
 〜〜〜の時

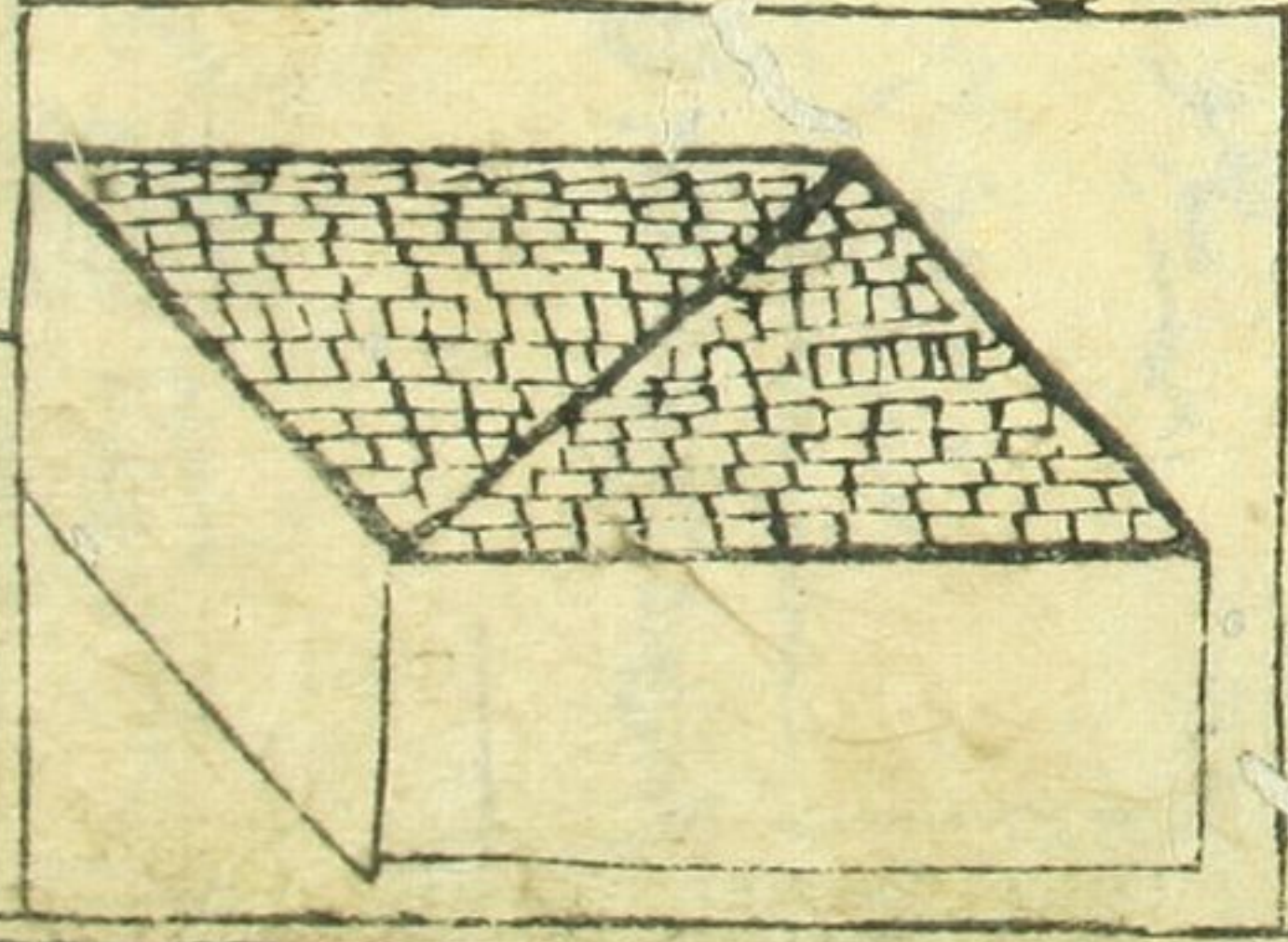
答曰六千八百四丈

但一ふ付  
 長五分半  
 廣三分半  
 わろし丸りのつものし

太一木のかり、但ツ付一丈二分七リ  
 分七リ

七貫九百九十四文

右報つより。ツと十六文がド  
 報百八文八百六十四文





金一分一珠をくくよのくくはほせ  
 寸のよあつとく同

各日八十二万三寸六分四厘四方よなま

右金一ふ一平よ六千八百六と一ツ

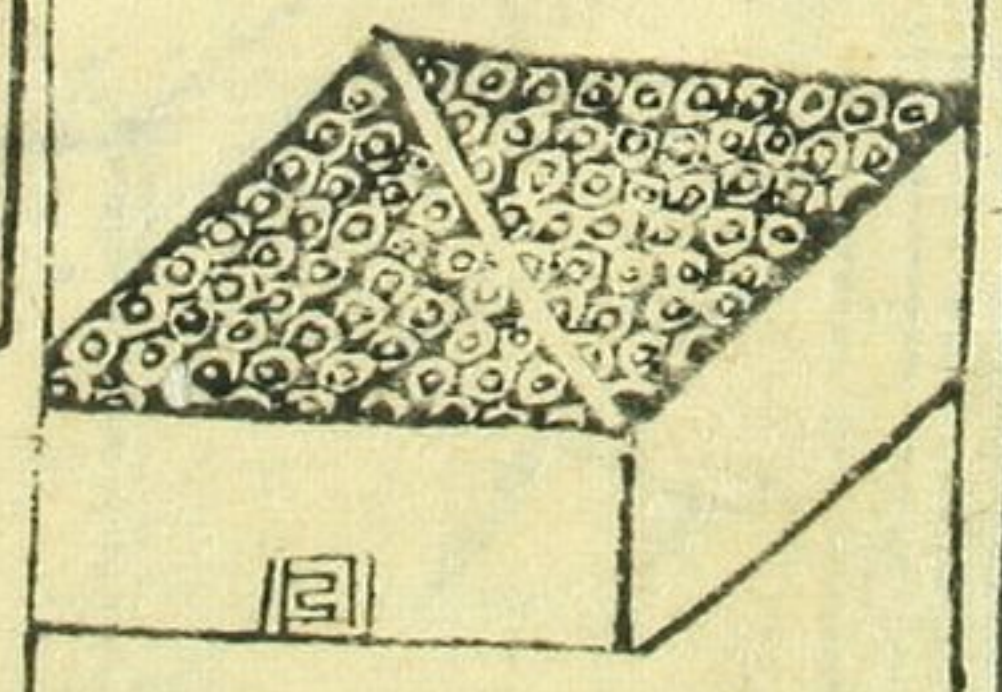
あつひよ長くあつてふあつあつ  
 わつとく同

共七万三寸七寸五分

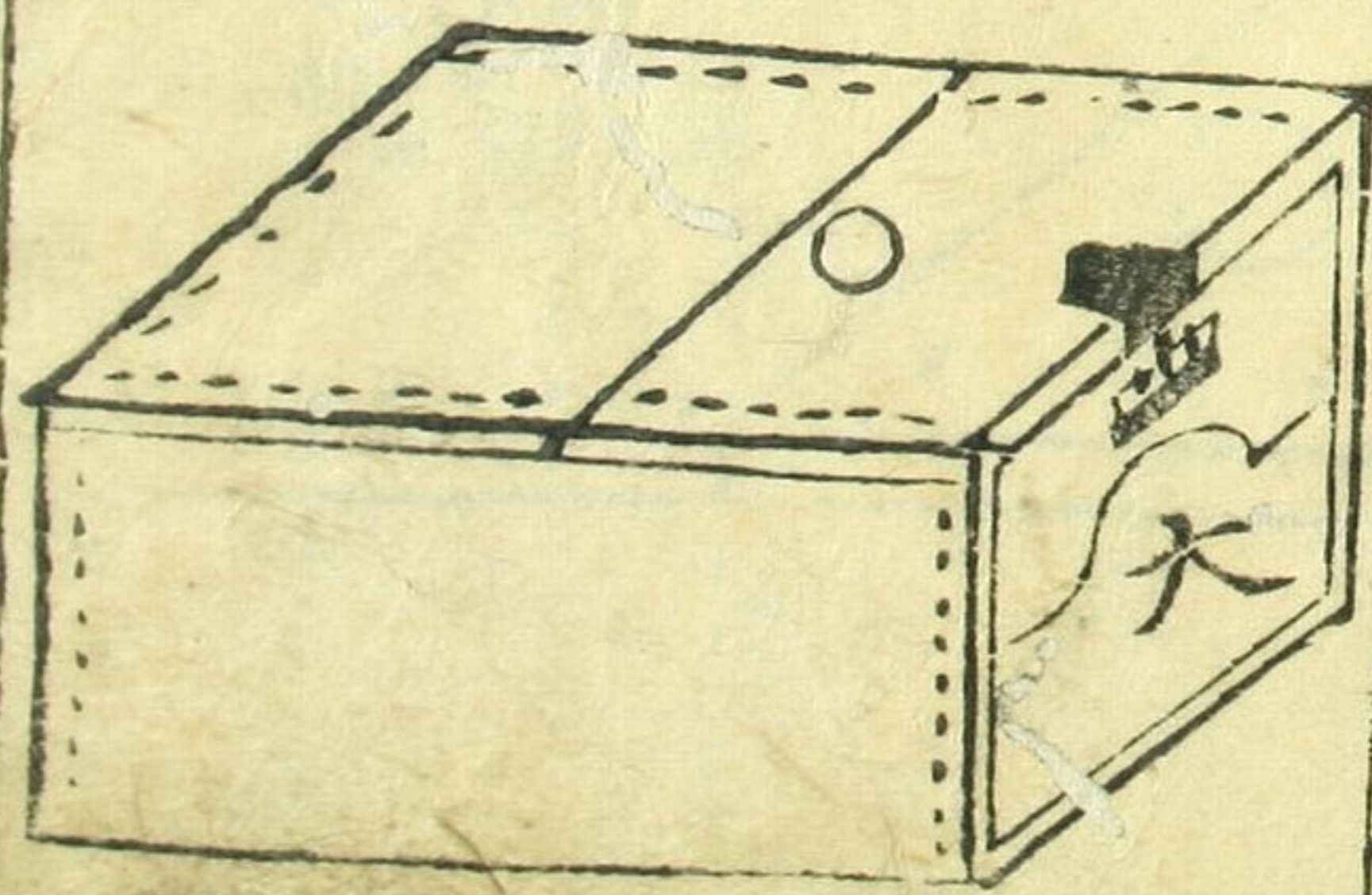


せたまつ一平よあつあつ  
 入とく同

各日二万五千二百十二文



又せ六百費入に積  
 各日一尺三寸六分四厘六面  
 但せにさつとく八分  
 あつとく同





一、四方のせいごころ

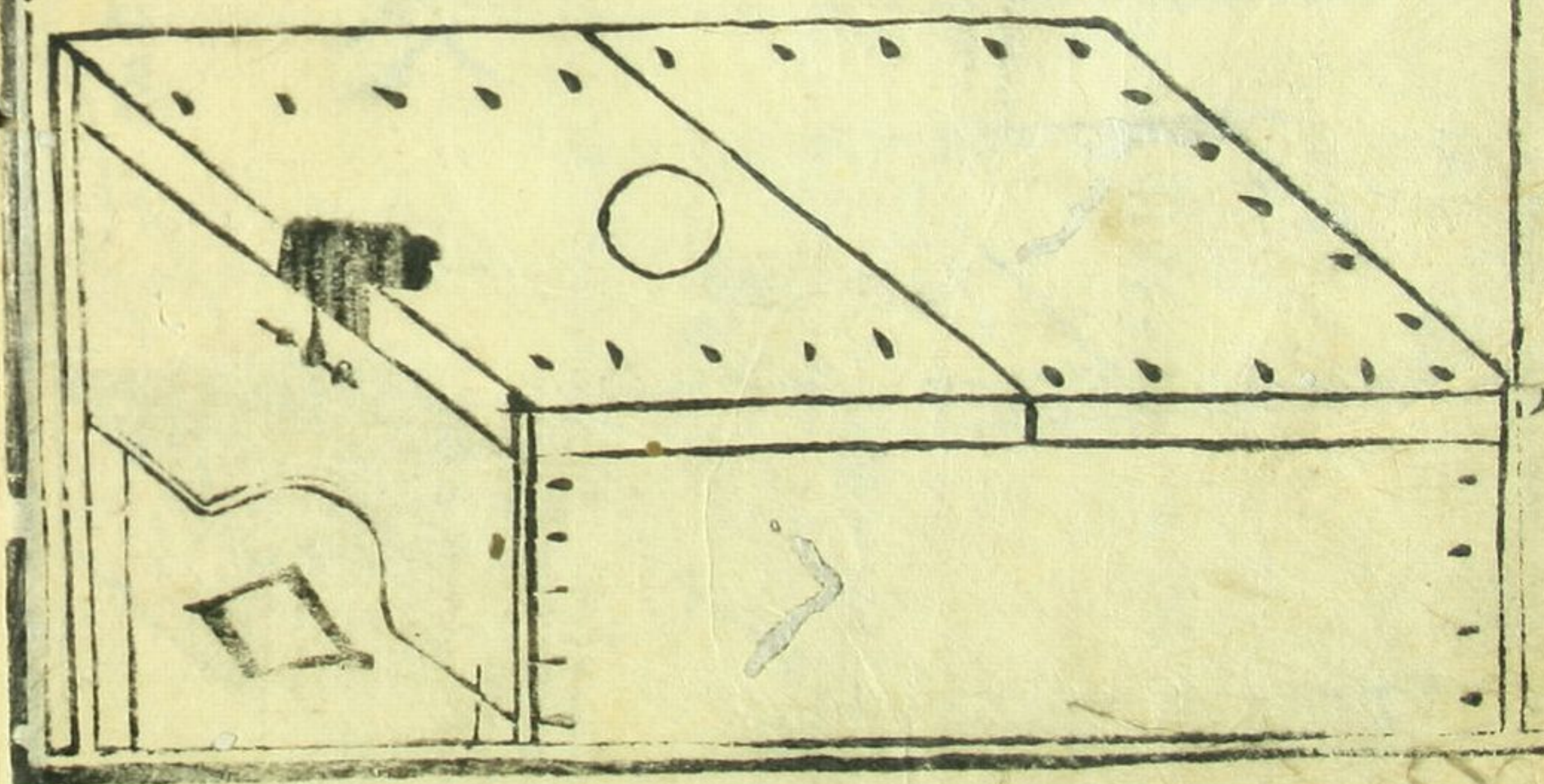
せいごころのせいごころ

答曰

一、方八百里三費三百里

又兼いびごころ

聖書九廿六



日本国中よ一、方ふろあめりあれ

答曰

二、京令令十二兆九千六百六十億つ也

右と較けしよりてふふりてふふりてふふり

二千四百九十一石及び

他日本東西長く九百廿七里十八町と云

又南小凡つ二百里と云里廿六町二町

六十つ。一、方八尺五寸。一寸四方より五つ

乃、所りりなり



祿とて。正月よ。父母いて。子と十二  
 うむ。ちやとて。十四五よ。此。この祿とて  
 二月よ。い。も。又。み。と。十二。五。の。う。む  
 の。よ。ち。や。と。て。九。十。八。五。よ。此。か。く。の  
 一。く。よ。月。よ。一。な。つ。地。や。と。あ。ま。ま。も  
 び。こ。も。月。く。よ。十二。五。の。う。む。時。よ。一。年  
 中。ふ。の。祿。と。て。い。る。よ。り。よ。此。と。同

合二百拾六億八千二百五十七万零四百三十二

元祿とて。二。七。と。十二。五。の。う。む。知。り。



右。く。祿。と。て。一。日。よ。年。半。合。つ。く。い。つ  
 つ。り。の。う。む。一。日。よ。年。半。の。う。む。同

答曰

〇千三百八十四万千二百八十七石二斗合  
 右。く。祿。と。て。一。日。よ。あ。ひ。く。い。つ。り。さ。れ。ハ  
 日本国中の物。女。三。日。よ。い。く。つ。り。ふ。り

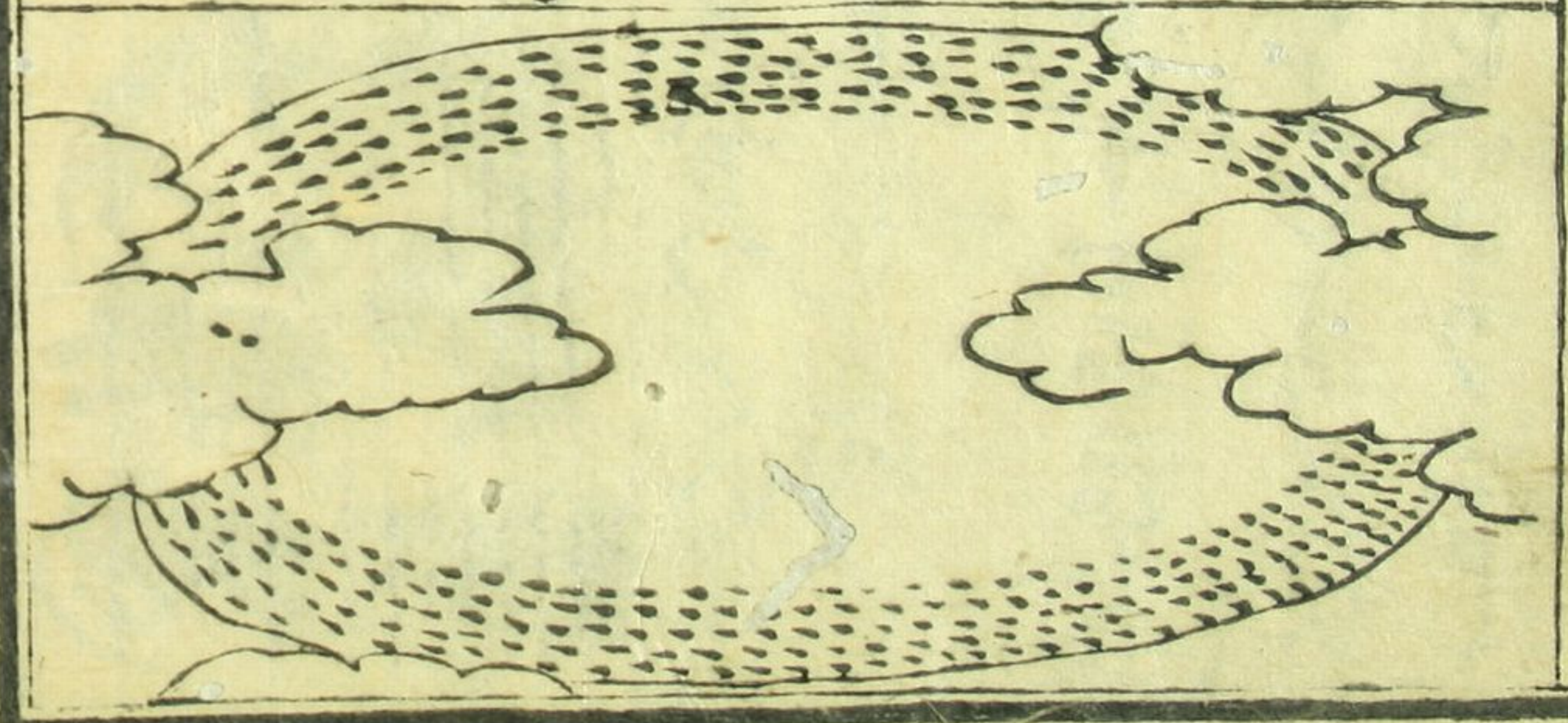
壘切下



右ノ孫と云々自中と  
しりきく時いらくも  
まよひしやう

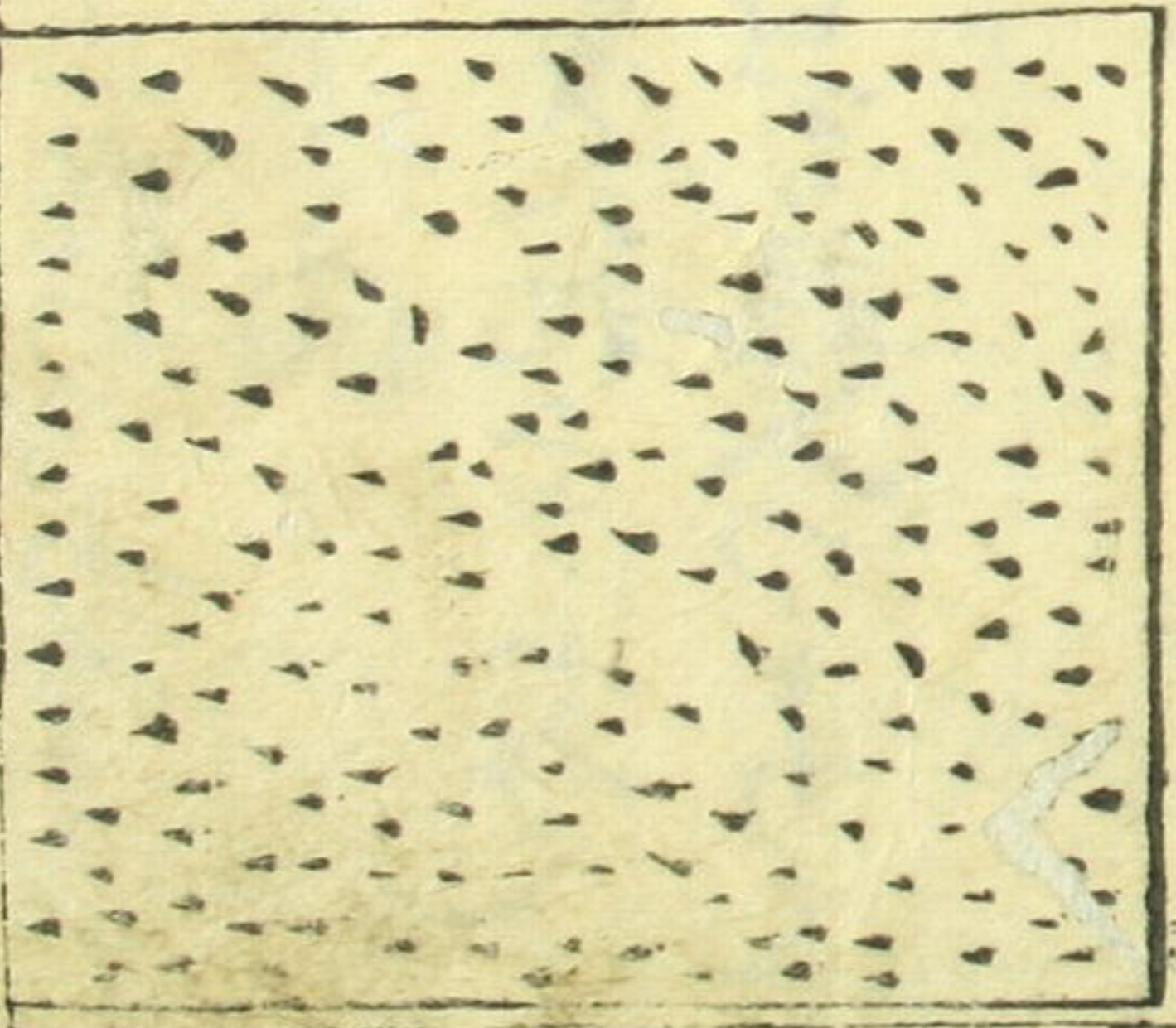
答曰  
二百廿四返と  
余百廿三重  
十二町と云

但孫と云一乃よ八廿六丈  
つ居つつよりまり目  
まより凡ソ二千二百里  
みつよりよし



孫と云々父母二王の孫と云々  
うむ一年中よあう成  
穀二百七十六億八千二百五十七万四千四百三十五

右ノ孫と云々とひに四万  
り入てくまありし向  
○四里六町五十五四方  
但一坪よ三百廿八丈つ  
居んつよりし





右に種をこし一玉よげし一粒の。少くも  
P時の計しるふがし入るし向

六十九石二斗六升三勺三文六粒二ツ六入し  
但平にいけし四百方粒入つともり

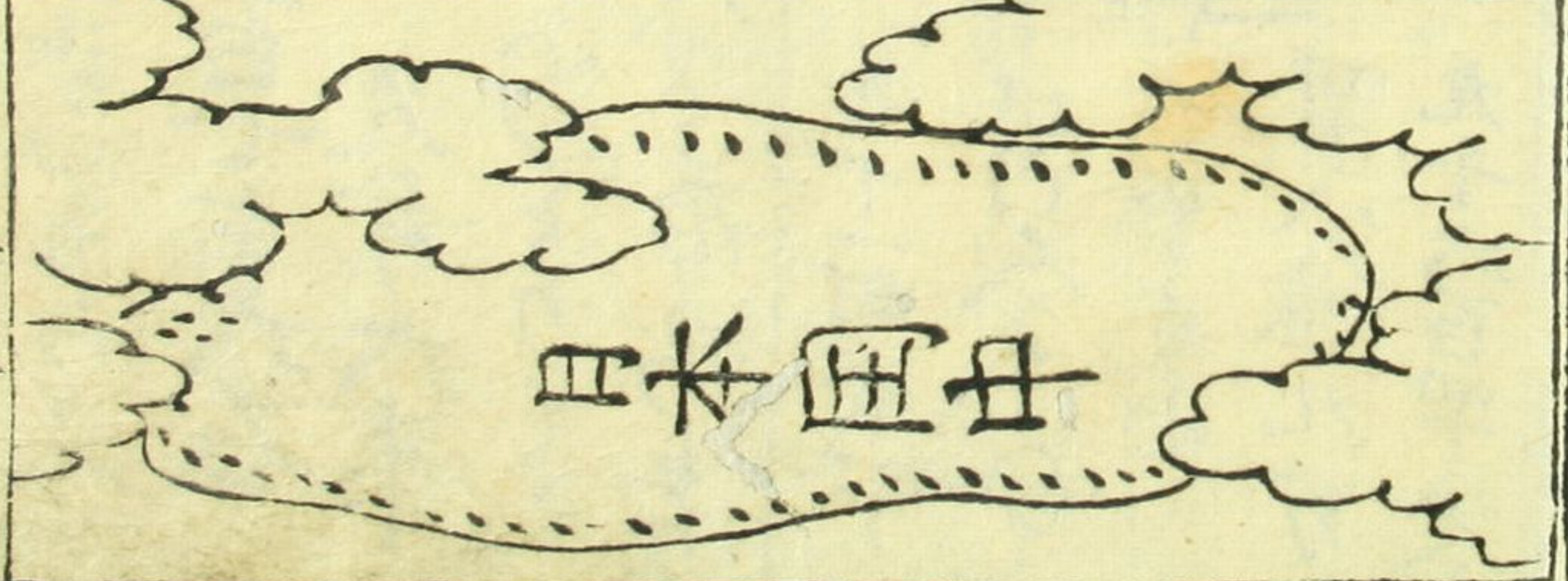
右に種をこし一玉よげし一粒つて一玉よあてふ  
P時の計しるふがし入るし向

米  
四千六百十三石七斗六升二文四勺  
他一斗二六万粒入つともり

日本國中男女の教行基白  
男教十九億九万四千八百九十八人  
女教廿九億四千八百九十八人

合拾億九万九千六百九十八

右に人数と。二万よて入つともり  
Pへの日本乃まよりともり  
ともりともり。右に入る米入人  
ちりあして目よ米入るふが  
入るし向





百三米 米方四千四百九十八石二斗四升八  
一年中八百六十七石五斗二升七十六石

九斗六升

但年中と三百五十四日ふつとりてし

右男女の數一男四女小十二人ツク居らつとも

しつらつてしつらふり  
そと向

長十一町廿一石

換十町あり

長十一町廿一石  
男と女の  
男八億九万  
九千六百八十八



せに一又といよく一とよいて目  
よはりよけくよぬそと向

共計三万六千八百七十貫九百十二文

右目見  
二万二千三百六十九貫 六百

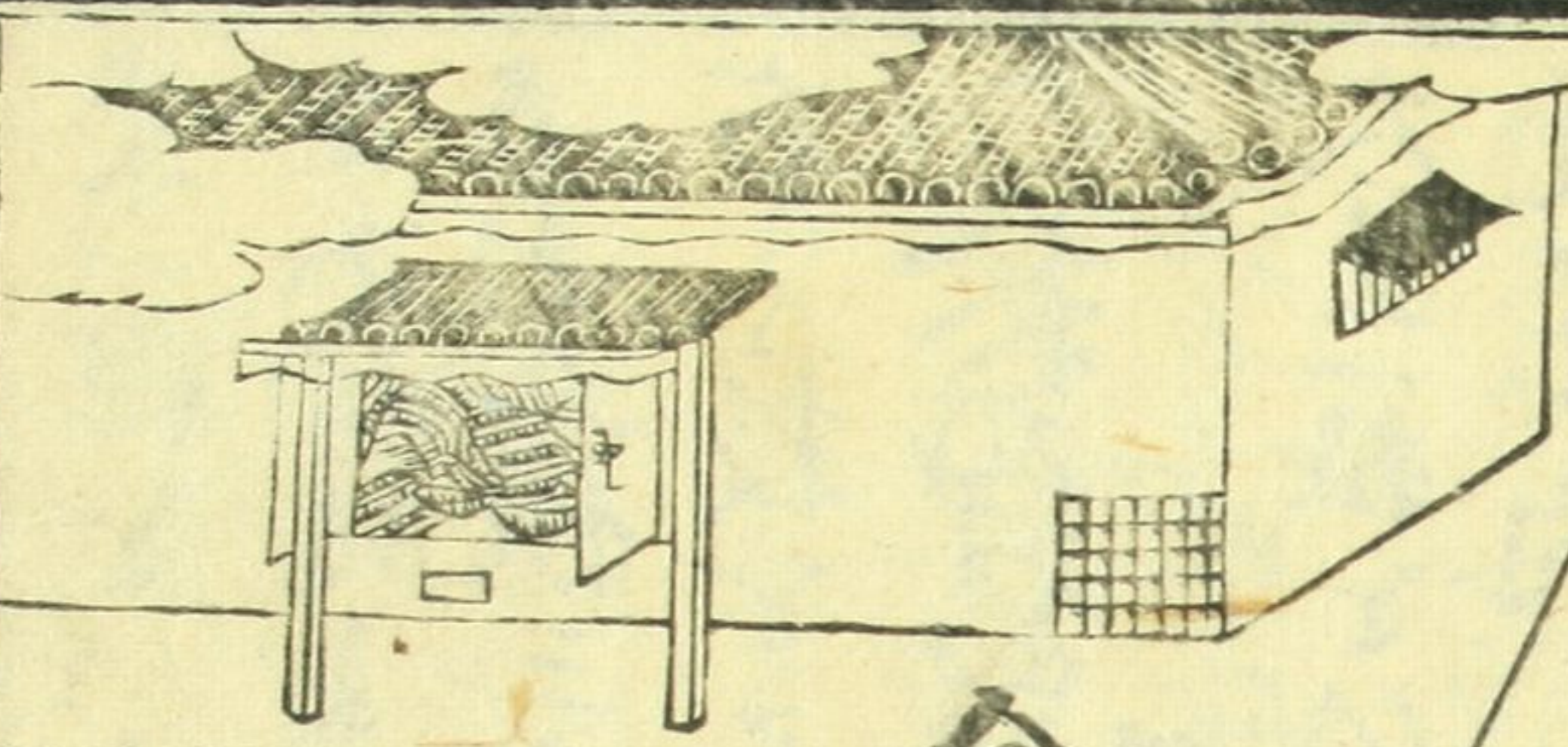
合五十五万九千二百四貫五錢五文

但九十六又百八

右とせにふりぬぬ入高

長十二石 ひろく四石

より一石半ノくくしよ入し





米一粒といふく一ふりて廿日ハ  
ふかやとよぬと向

米穀五億三千六百八十七万九百十二粒ニぬ  
右ノ穀とますすいづくりてぬ

○秋九石四斗七升八合廿八勺又粒三圭三粟

但一本よ六万粒つ入つりこ

大豆一粒といふく一ふりていりよが  
ぬと向 但一本五万粒入つりてこ

○千七拾三石七斗七升八合廿余よぬ

さぬ一ふりのさぬさとなりの  
をよつけてとます時よハ  
長さふかやとぬと向

○長さ七里十町廿五畝廿三寸  
きの穀十八百長さて二丈八尺  
一尺三寸一寸九十六とら





京中へ上様より銀五千貫目ら下  
 家敷三万七千八十七貫ありおし  
 銀百廿四文八分ニリつゝ  
 九系中家で万けんとして二けん  
 人十人ありよつぎらして四十万人  
 とれよ米日は又今あらよして一月よ  
 二千石づゝ八月よ六万石年中よ七十  
 二万石あり

又一けんよ廿人ありよつらして一月よ四万石  
 月よ十二万石年中よ百四十四万石あり  
 せけんよあこいひいさくせなめて米の  
 うららる。いつあくとちやうしうらくあり  
 へくもりの米をうまぬとらふれう  
 かつとちちり人のつみ一人  
 つけて米一合つ。日こよぶくへのりす。  
 さん用よしてと。年中よ七十五百  
 くのこいひ

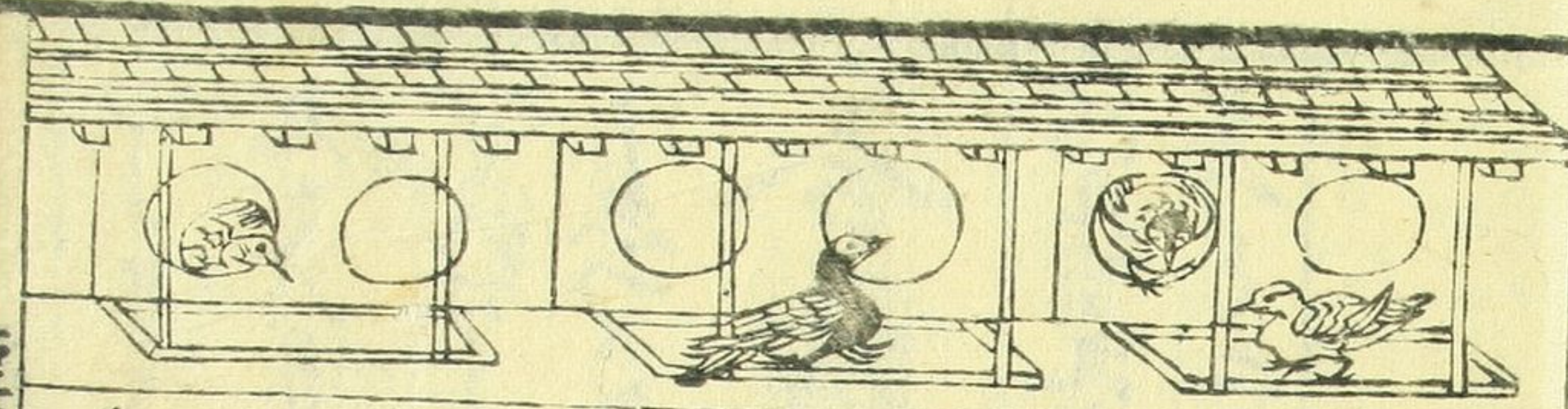
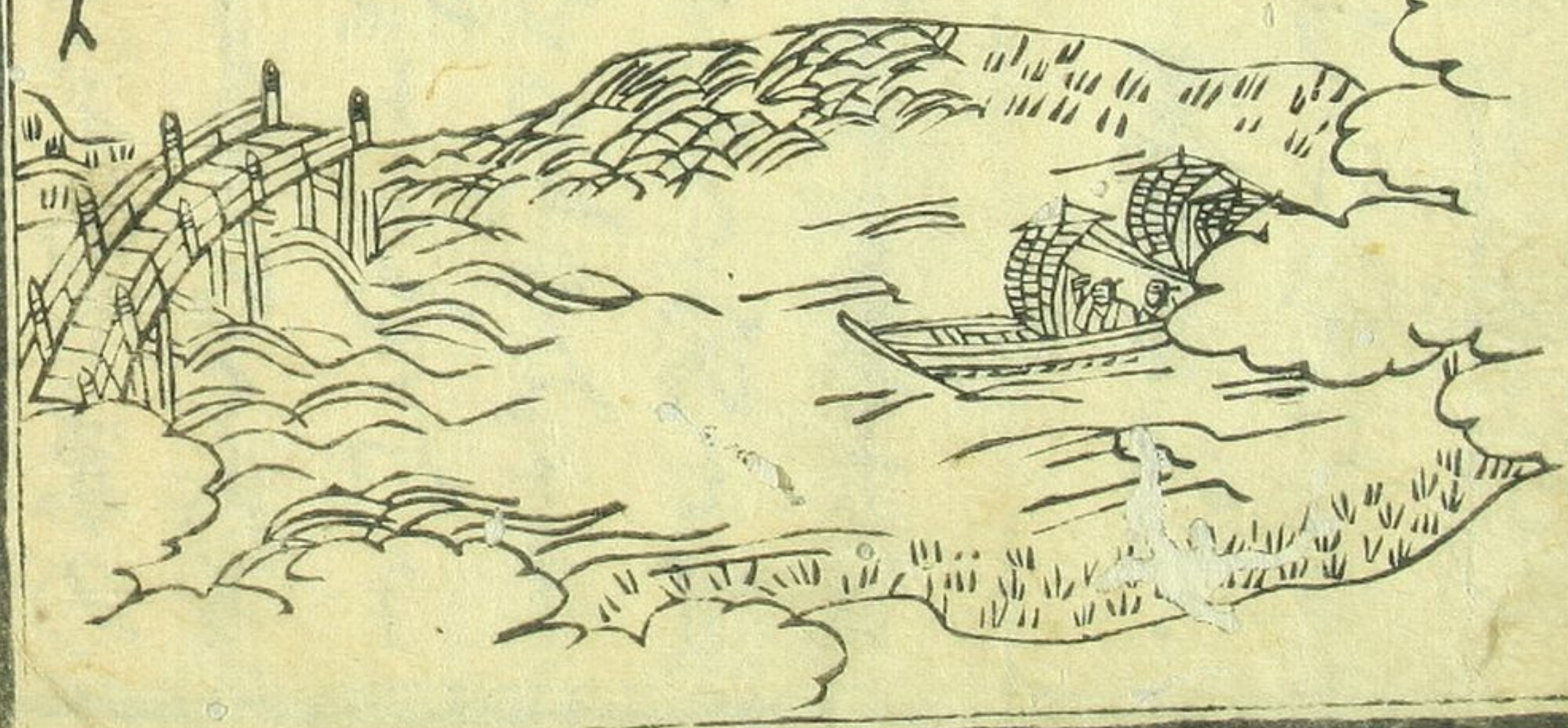
京中の西少くも目より三百石  
 のひし月よ二万二千石つゝのひし  
 一年中よ六於四万四千石としかり賣やじ



わきのあつこきまより  
らうらうらうらうらうら  
米のよけわらわらうら

○ 答曰 千石 お米こ

右、米にて、京中と  
日あるや、一むひ、じゅう  
三うぶう、おいて、京三  
や、一、ま、うら、と、い、れ  
今、八、系、ひ、ら、う、い、り、き、ん、と



こゝに、月、よ、子、と、二、三、う、ら、ん、と  
二、月、よ、又、子、と、子、と、二、三、う、ら、ん、と  
月、よ、一、交、つ、あ、や、も、子、と、ま、ま、と  
い、こ、も、う、む、母、に、十、二、う、ら、ん、と、何  
か、と、よ、ぬ、と、同  
合、八、千、百、九、十、二、と、よ、ぬ、と、い、ふ  
法、お、や、二、と、よ、二、と、り、つ、く、十、二、交  
くれ、八、千、百、九、十、二、と、と、う、ら、ん、と、い、ふ  
右、こ、も、う、ら、ん、と、よ、ま、ち、日、よ、一、合、く、つ、の、あ  
て、よ、八、日、と、ま、ち、八、石、二、計、九、米、二、入、つ、て、合



かゝるさんと云ふは九百九千  
 九のうゝと云ふ九百九十九は  
 一のうゝと云ふ九十九は  
 一のうゝと云ふ九は  
 一のうゝと云ふ一は  
 〇合九億九千七百令令 二千九百九十九と  
 九百九十九は九百九十九と  
 九十九は九十九と  
 九は九と  
 一は一と



ぬの二のんのまぬのののの  
 じのののののののののの  
 むんじののののののののの  
 三里六町四十三万二尺五寸  
 九ツニ入布長二丈八尺  
 ろ一丈二寸ねそすい  
 みすすらうつ  
 〇

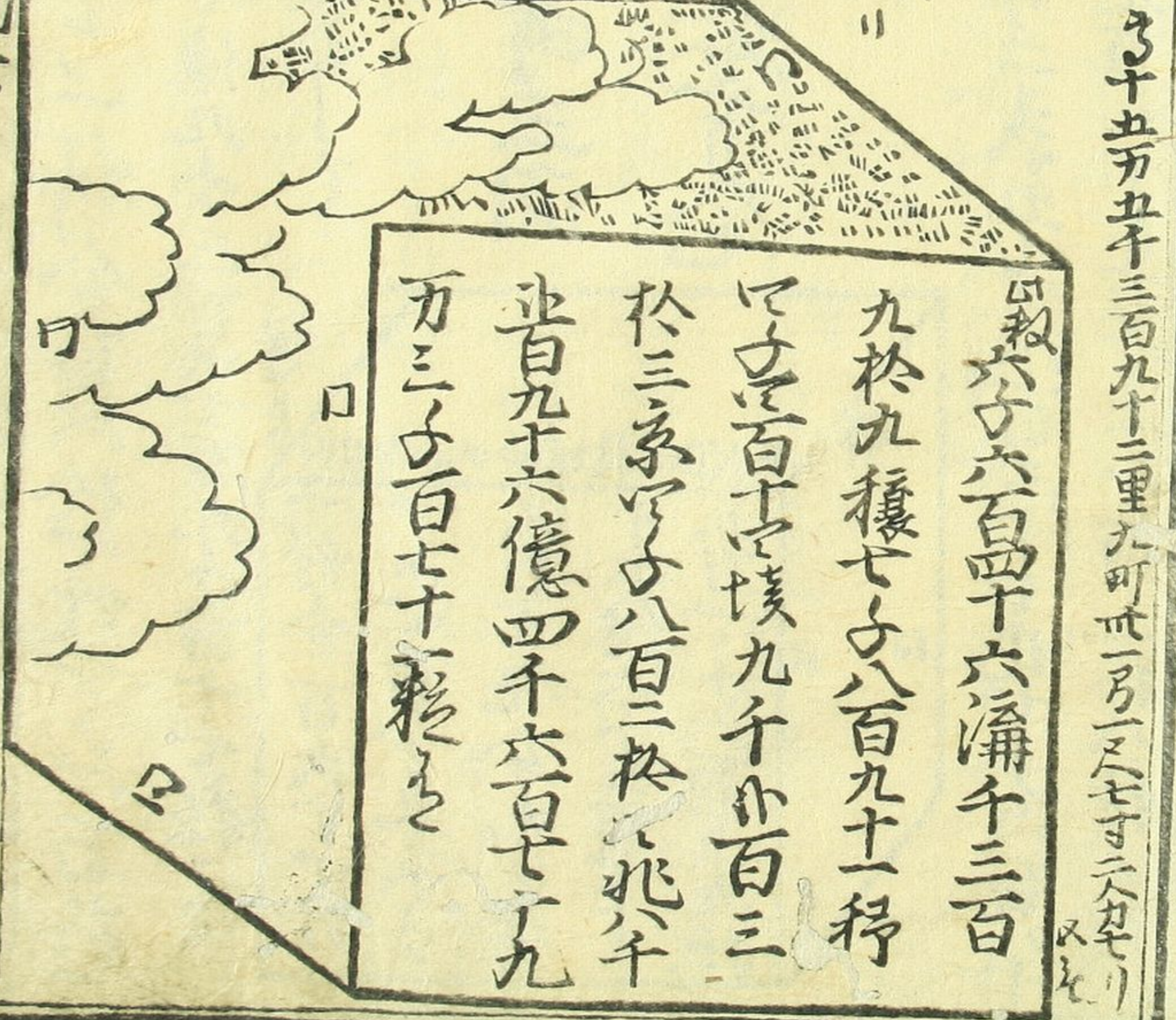




け一粒と目よくよまうて百廿日の  
 ありのくーたの敷るふりともそと向  
 六千六百四十六海千三百九十九穰七十八百  
 九十二秭四千五百七十九粒三千六百四十  
 五京千九百令三兆五千三百令一億四千  
 令十七万二千二百八十八粒よぬ  
 右に敷さんのもりてにてハめけよとれハ  
 これ何れともよりオと進ふしる右に敷を  
 ても六面よつてとてとせし  
 十萬九千三百九十二里九町廿一尺七寸二分  
セリノ文  
モ六面

一里と云  
 廿六町  
 一町ハ  
 六十弓  
 一弓ハ  
 六尺六寸  
 一分五釐  
 一釐ツ  
 一ツハ  
 一ツハ

十萬九千三百九十二里九町廿一尺七寸二分



六千六百四十六海千三百  
 九於九種七十八百九十一秭  
 一億四千九百九十九粒三千  
 六千四百五十九穰七十八百  
 九十九粒三千六百四十  
 五京千九百令三兆五千三百  
 令一億四千令十七万二千  
 二百八十八粒よぬ

廣野下

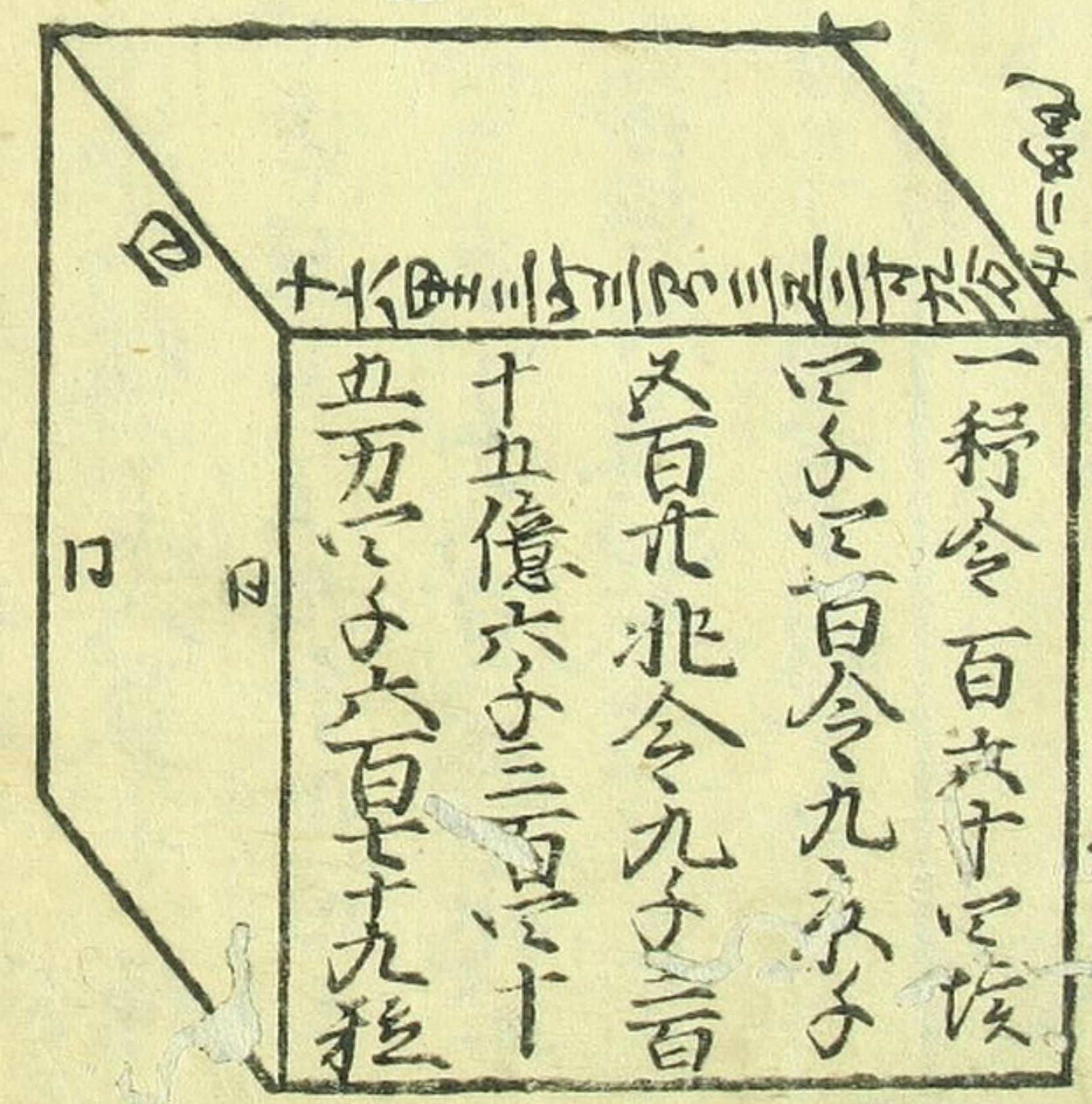


右のわらり一掃令百六拾二粒  
 系七十令億九千三百七十九百十七粒  
 一掃令百六拾二粒  
 四子定百令九千九百  
 六百九千令九千九百  
 十五億六千三百七十九  
 五万四千六百七十九粒

拾六里三町三間

三尺二寸九分五毫

右のわらり二系五子六百又十七兆七千六百八十九億二千九百九十九万九千九百九十九粒



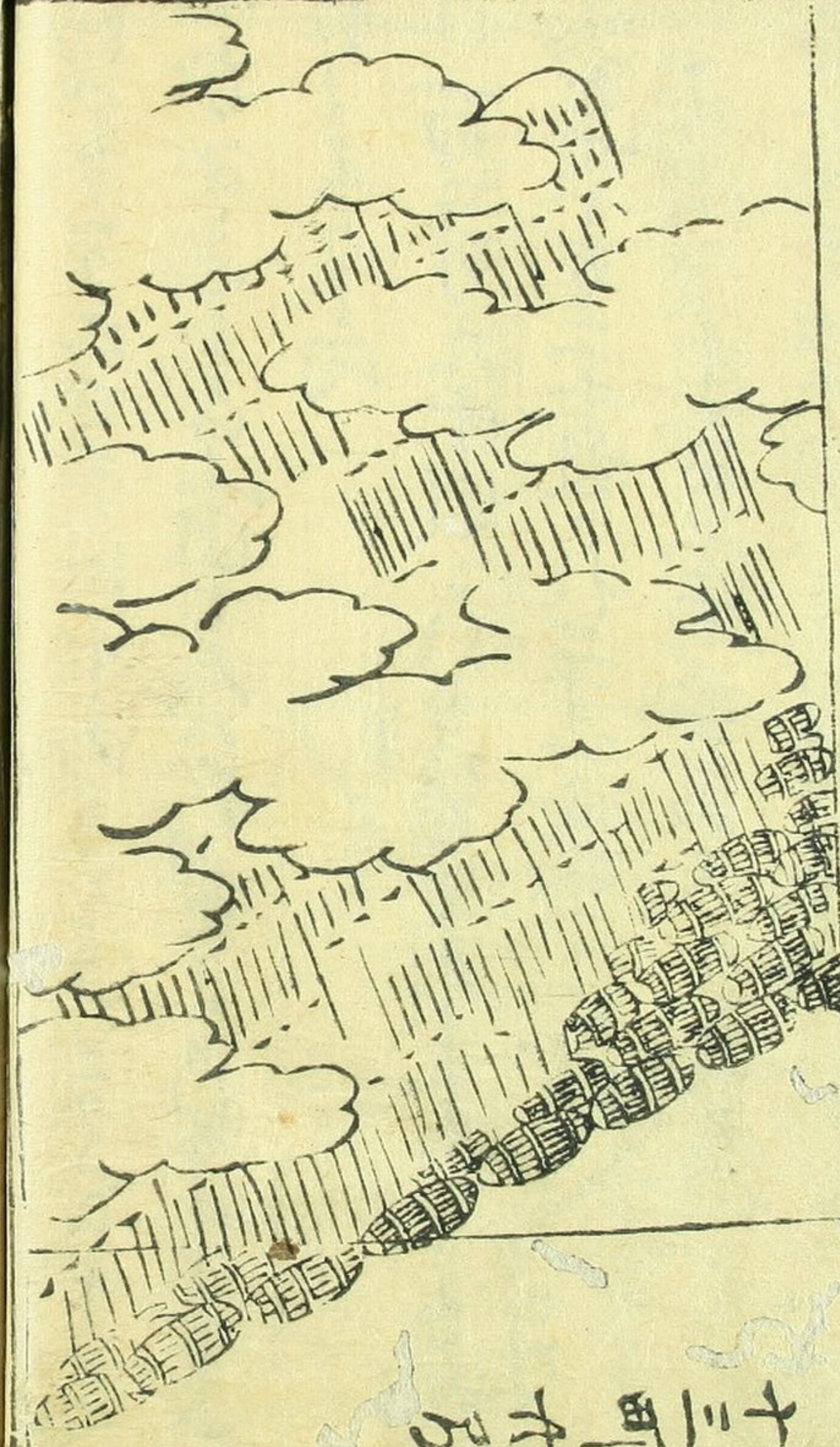
動つしよ云日本国中のさしとつてしるは  
 四方のさしとつてしるは判金よとせしるは  
 けしとつてしるは

○百二万九千粒の面と判金三粒の積  
 又百廿七万二千粒の面と判金三粒の積  
 かるにりや 十三百七十二万粒  
 右と六十六ヶ国へより付るハ  
 一ヶ国に二万七千八百八十七粒の積  
 三分つよわらり一ヶ国に  
 三ヶ国のさしとつてしるは





日本國中六十六ヶ国の米九ツ四千万  
石もつとりのみしてけ米もさす石も入  
りして十三町せり四方より



十三町せり

八尋のみの産米は伊予  
いろよと木さしてたこの  
とまかきと

十二尋の産米の中よ  
別中の産米を入  
めけし

一尋	一尋	一尋	一尋
一尋	一尋	一尋	一尋
一尋	一尋	一尋	一尋
一尋	一尋	一尋	一尋







三里のうらりと三人いして  
じまの二正よのりのわらわら  
町いあんまのりしあ  
向

一人あよ  
二重のり



さうぬまきんりのあさ  
よてぬのどまけてなを  
りのりいにくとてあ  
あよせてまきけいんよふあ  
ナニえんつまこれい十二え  
あまら又人よま十でえん  
つまこれい六えんたうま  
よくはぬま人の教布教  
なるあめり同ぬま九人  
ぬの百丹え

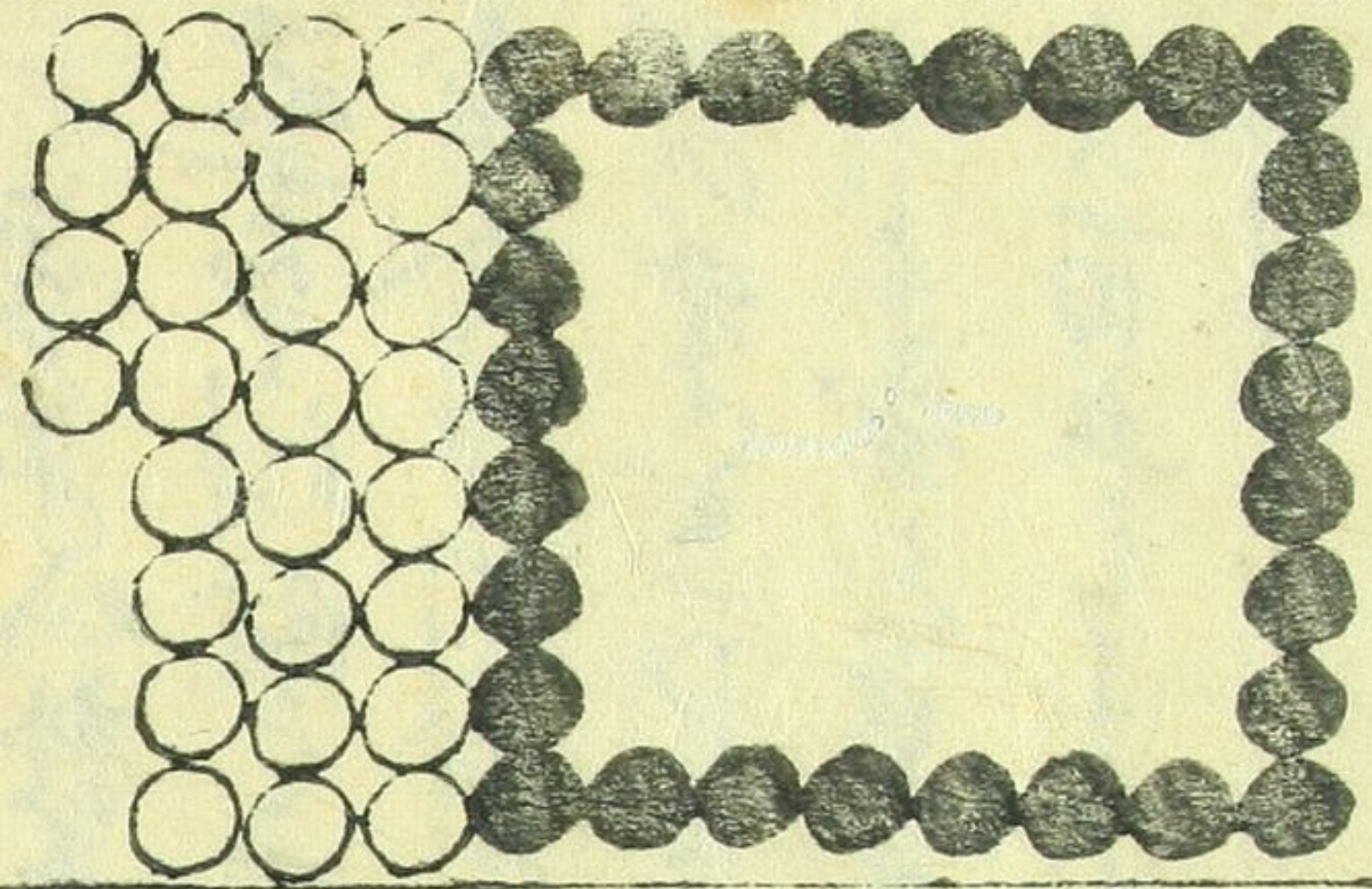








茶師 算

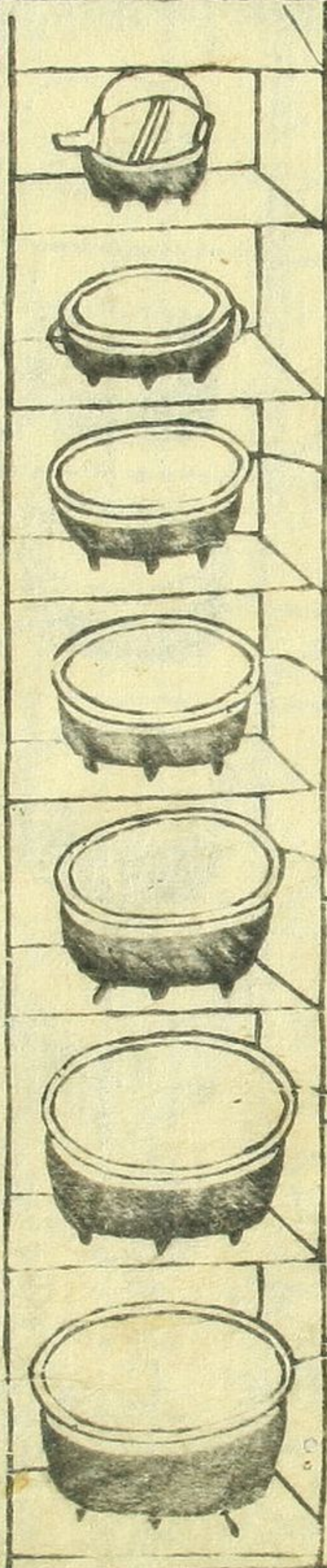


めけや方ニありて二方ハ  
 五肘ニ一方のハツと名の  
 まる垂三方とハツグイ又  
 ハツナシハツカハツナシ  
 五肘ニ一なるりときと執教  
 と子

○外松ハわりと云

信小津二ツと云々のまん用おしと十六と入  
 外小松外廻り肘九八と云い十三ニツり入  
 又中ありと云肘十三と云り又面九わりと云

入子 算



あつしい七ツ入子のこと報ゆ松きと云ハツ肘  
 入子きつ付ありと云いけて下ハ何程にあつと云  
 一丈二分 一丈五分 二丈五分 三丈 三丈五分 四丈五分

まろ七と云ふと云きてちと七と云きてつり六分  
 るしてたの七つれい六七の字一と云れと二ツ  
 五れ九一と云れ六分と云れいして六分と  
 是と云の九一丈の四ツハ五分と云つと云つと云







糸の商人のかひ

いんえ 百一十文

りんご 廿八斤十文

### 六拾四費八百

いん 三子百二斤

まゐ 百十三子三子六尺身

こかの商人のかひ

いん 半一十斤九文三子

りんご 廿二斤廿六文一子

### 五拾二費三百

いん 二子百半一子百廿月

まゐ 半一十三子九尺九寸身

大さくの商人のかひ

いん 六十七斤一五文

りんご 十八斤廿六文二子

### 四十二費九百

いん 二子二百又十二斤廿月

まゐ 七十八子三子二尺八寸身

まろの人あん二百五拾斤七文ときて一人おのかひ

六十字費八百月とわかれ一六二子とわかれとわかれ

百六拾費目めてよれはいんあん百斤二文とわ

い二文とわかれあつたれわつた一十斤のあつた百六拾月

まゐれと二文づりふくれ百一十斤廿十目とわかれ

いんあつたとわかれ半つとわかれあつたてよれ百文

きん十文とわかれ半つとわかれ六十字費八百月の

いんの人あんのより付たり

又らんうと七斤と六拾費八百月とわかれ六文

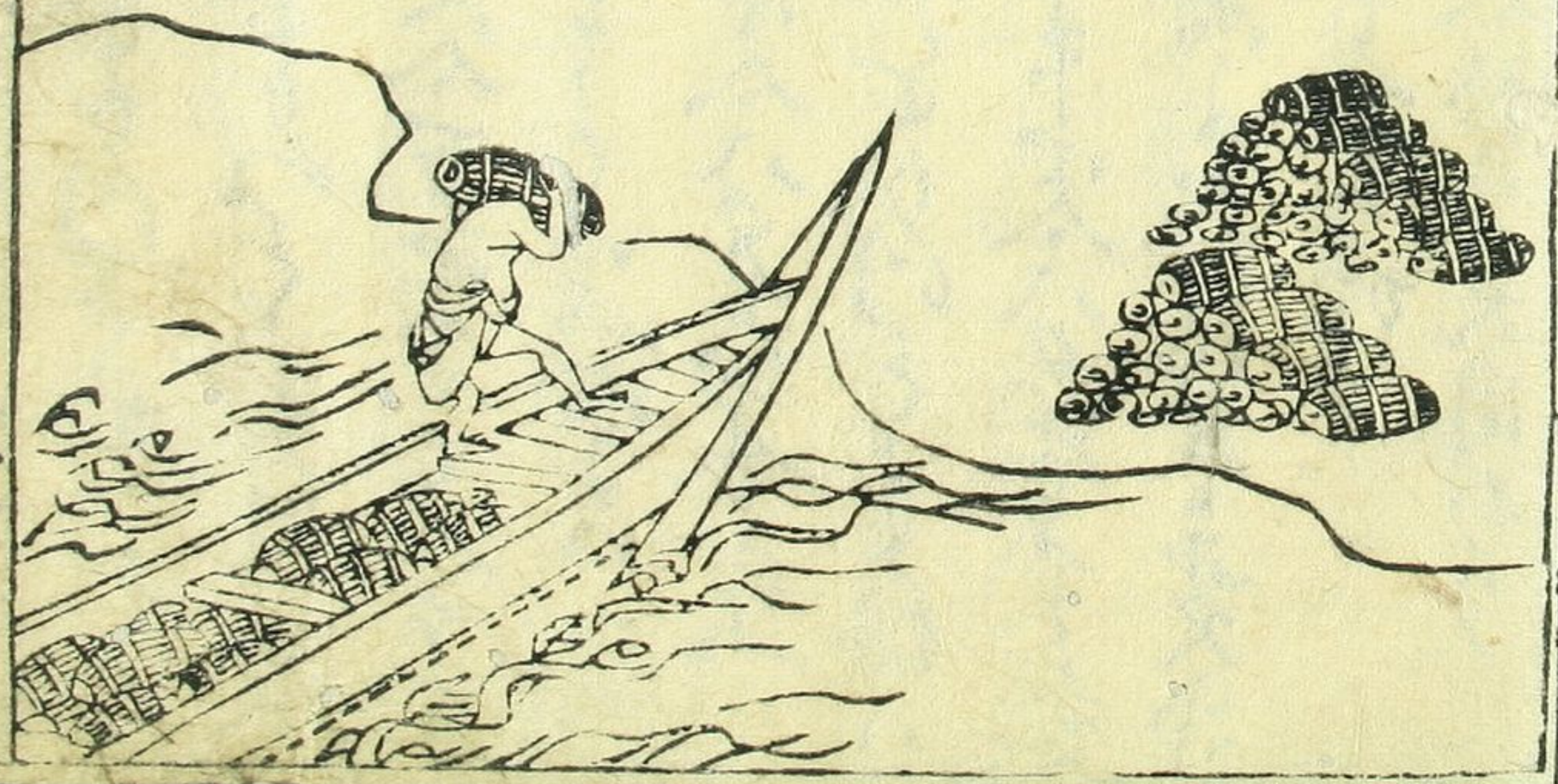
三六とわかれとわかれ百六拾費目ゆくとわかれ



廿八分ニ又と女は二より三の事とされぬ時お石目  
 百六十めと三又おぢれ廿八分又十六女と女は十  
 六女と女はめくはれた廿八分十女ととれし  
 又と八子の首分りとは十女費は首同とれぬ事  
 三女とと百六十費ありとれた三女は首同とれ  
 又また也と十女費は首同お石目十女ととれた  
 八二分と女はと百六十費同ありとれた百十と  
 まはと女はははとら女事とれぬお石目十女と  
 と女はと女はとれた百六十とら女はと女はととれた  
 女はと二人あり女はととら女はととら女はと

観之賞算

一ののんちんの事  
 ありといふ事二百五十  
 石つとていふ事  
 ありといふ事  
 時一しうんちん  
 百石身七石つと  
 有る二百五十石の  
 多く拂時よらん  
 りんりおりとも向  
 於六石三身又末又人互









親子後



小百五十同とありてとれと七百十六石を  
 計とありて  
 又ひよのころりやひの六百八百あふんま  
 来るよがけりてあふんまの  
 ○小百七十年石を計とありてありて  
 右と七百十六石を計とありて六百八百同とあり  
 かりといひて八七二五とありてとれのと十費  
 月とありてとれと二百七十年石を計とあり  
 とありてとれひよのころりてとれとあり  
 かり

一人廿二歳より廿九歳とありてとれとありて  
 子の百一年より百二年とありてとれとありて  
 小百五十のへんりてとれとありてとれとありて

子とありてとれとありて  
 ひてとれとありて  
 玉とありてとれとありて  
 肉とありてとれとありて  
 玉とありてとれとありて  
 玉とありてとれとありて

廿二歳より廿九歳



子とやうにひそひそつる入目毎年よらん  
 米三石とく報卒目三石入らん月計也八歳  
 くらうと付垂之他りよの年ハ二石又半二入  
 らん月仕人二年めくらハ二石の加へてな  
 ニワリの利とひけて又三年めよして二石加へて  
 ニワリの利とくらうとび年ハ二石と又十月  
 との微よとひひひひのそとくらうあり  
 とらからくらうよそとつるひよの入目とえ  
 月一して見まはせりつとらりつとれとら  
 時ハ子とりあ人のひのらひあひとら

五	五	五
十四	十三	十二
二百二石又半三六	百六十一石三斗六升六	百廿八石又半八又夕
五又二百四十八石五分三	四又百八十二石又五分一	三又三百廿六石九斗一
九又	十又	十一
六十一石二斗八升三六	七十八石三斗零七升	九十九石六斗零三升
一貫五百九十二石三斗	二貫廿六石又五分九	二又五百八十七石五分一
七又	八歳	九又
廿五石又三斗零七升	四十六石又三斗八升	六十一石二斗八升三六
九百廿八石八分三	一貫二百三十三石七分一	六百九十九石六分一
五歳	六又	七又
飯米十九石二斗六升零	廿六石六斗六升七升	卅五石又三斗零七升
七又	八又	九又
廿五石又三斗零七升	卅六石六斗六升七升	四十六石又三斗八升
九百廿八石八分三	一貫二百三十三石七分一	六百九十九石六分一







壬	壬	壬
四八	四六	四七
二万七千七百六十一石二斗三升	二万七千四百九十一石六斗三升	三万四千又石二斗九升八勺
五百六十三又百七十五石	七百九又六百六十六石	八百七又四百八十八石
四九	四八	四七
六万五千八百九十石六斗三升	四万二千百六十九石六斗三升	三万四千又石二斗九升八勺
千七百五又三百七十五石	千九百又三百七十五石	千九百又三百七十五石
四一	四二	四三
八万七千七百六十七石六斗三升	拾万二千九百三十三石六斗三升	七万七千六百六十四石六斗三升
二千百四又五百七十五石	二千六百六十二又百七十五石	三千三百五又百七十五石
四二	四三	四四
六万五千八百九十石六斗三升	七万七千六百六十四石六斗三升	八万七千七百六十七石六斗三升
千七百五又三百七十五石	二千六百六十二又百七十五石	三千三百五又百七十五石

陸奥下

四一

子七人として額千八百貫目とけておと云付  
 兄より次男よの五つりり三男よの  
 一より三男より四女よの五つりり三男よの  
 五男よの二より五男より六男七男まで  
 一よりおしして兄の額を分るふれとて  
 兄 額五百五十貫九斗八升  
 次男 額二百七十八貫八斗九升  
 三男 額二百七十七貫八斗九升  
 四女 額百六十三貫七斗六升七勺  
 五男 額二百九十二貫七斗六升六勺

陸奥下

四一



六男 二百貫百八十文八分六厘

七男 百八十貫四百廿七文二分七厘

先兄五人三貫目と左は五又右二男のよき貫目

と重き五とくれは百貫と女は五と左は加二男

は百貫九とくれは四百廿七文又左は加四女は

百貫百廿五とくれは二百廿五文又左は加五男

は百貫百廿九とくれは百廿五文又左は加六男ハ

百廿五文九とくれは三百廿五文又左は加八

七男は三百廿五文又左は九とくれは三百廿八文又

左は九加九は合三貫二百七十二文又左は百りあり

是とけしと報多千八百貫とくれは兄報く

七人の子は米二千石ゆりつ時未子初と歳

はうとさよあつて米多と多事

兄七五歳 二百廿八石九斗八升八勺

二男七四歳 二百廿七石六斗九升八勺

三男七二歳 二百七十六石九斗七勺

四女七歳 二百八十九石七斗八升八勺

五男七歳 三百零七石六斗八升八勺

六男七歳 三百十石七斗八升八勺

七男十五歳 三百廿三石三斗三升三勺



は白兄より二男一年ちる兄より三男の年  
 ちるめけは兄の<sup>カキ</sup>と<sup>カキ</sup>弟く乃やれらる  
 ころをわさ合村又も又兄乃や一廿八歳  
 七とくれ首すす又も一若く廿八と加  
 時二百十と女これとほりて兼二千石り  
 廿八とけしてはとのりこれ兄の米<sup>ま</sup>米と  
 志れし又二男の兄の廿八歳一一年ちる  
 加へて廿六と女是と二千石よりけしては  
 ちるくこれ二男のちる米志れし二男富  
 皆右と<sup>ま</sup>持同あり

新知割

西村のちの抽女ひのよとと抽女とあり  
 知りある千五百石ころの女と六百  
 廿一石八分又六太もは東村の廿七分  
 西村の三ツ九分と東村のちの知りある  
 時よ又東村のちのちのちの向  
 東村、ち八百三十九石七分  
 抽女三百九十二石七分九分  
 西村、ち六百六十七石七分  
 抽女二百廿九石七分七分  
 三ツ九分  
 是のち千五百石と三ツ九分とくれは百



八十五石とぬれとぬれぬ六百八十一石八斗  
 六斗六六の内より川筋で六十六石八斗六  
 六斗とぬれと八斗より川筋でぬれぬ東村の石と  
 志れしは八斗より川筋でぬれぬ東村の石と  
 九分川筋で八斗とぬれぬ東村の石と  
 知り上中下とぬれぬ東村の石と  
 多五石石の内上村とぬれぬ東村の石と  
 石下村とぬれぬ東村の石と  
 三村とぬれぬ東村の石と  
 十石とぬれぬ東村の石と

上村百石三斗八升ぬれぬ東村の石と

上村ぬれぬ八斗七分七厘二毛ぬれぬ東村の石と

多二石

ぬれぬ百六十七石五分

中村ぬれぬ八斗一分七厘二毛ぬれぬ東村の石と

多百七十石

此ぬれぬ百八石九斗五分

下村ぬれぬ七斗九分七厘二毛ぬれぬ東村の石と

多百三石

けぬれぬ百三石六斗五分



大工之割

塵埃下

はよ中の村より百五十石より二分とくれい三石  
 四石より又下の村より百廿石より二分と倍し  
 五分とくれいくれい又石二石より二分八石六寸  
 五寸十石を加へて四百十八石六寸これと云ふ五百石  
 とのつくりこれい上村の地也ハツ三分七リ二毛と  
 ちれい中いしよ五分以下中三分り

上村のふい ハツ三分七リ二毛あり

中村のふい ハツ一分七リ二毛也 上村三分

下村のふい 七ツ九分七リ二毛也 中村三分

右いぬとあてをれくのさくれいぬとあて

上大工五百半人 中大工千百人 下大工八百  
 六十人 三合合千五百人（米百石  
 海り時より半ハ七合より中より下ハ  
 八合よりよりして百石の米をとりけり  
 右村い上大工一人有きよ知くよわらるる向

上大工一人有 算八合二寸五分

中大工一人有 算一合二寸五分 右ノ上リ

下大工一人有 算二合二寸五分 中ハ合ハ

上五百半人よ 廿六石算半九合六寸

中千百人よ 算半又石三寸六分

西暦四一

七六



下八百六千人は廿八石又計八千六百六拾石  
 計日中大五千百人は七石とくれば七石七斗  
 とぬ又七人と八合と合せると申又合を  
 是と下大五八百六千人よりこれ千二百九斗  
 とぬこれ七石七斗と加つ時よ廿石六斗とぬ  
 これ又百石と加ると百廿石六斗とぬこれと  
 二千五百人ともつくとれば上二人百六十八人  
 ニタテ又よあつると志れし

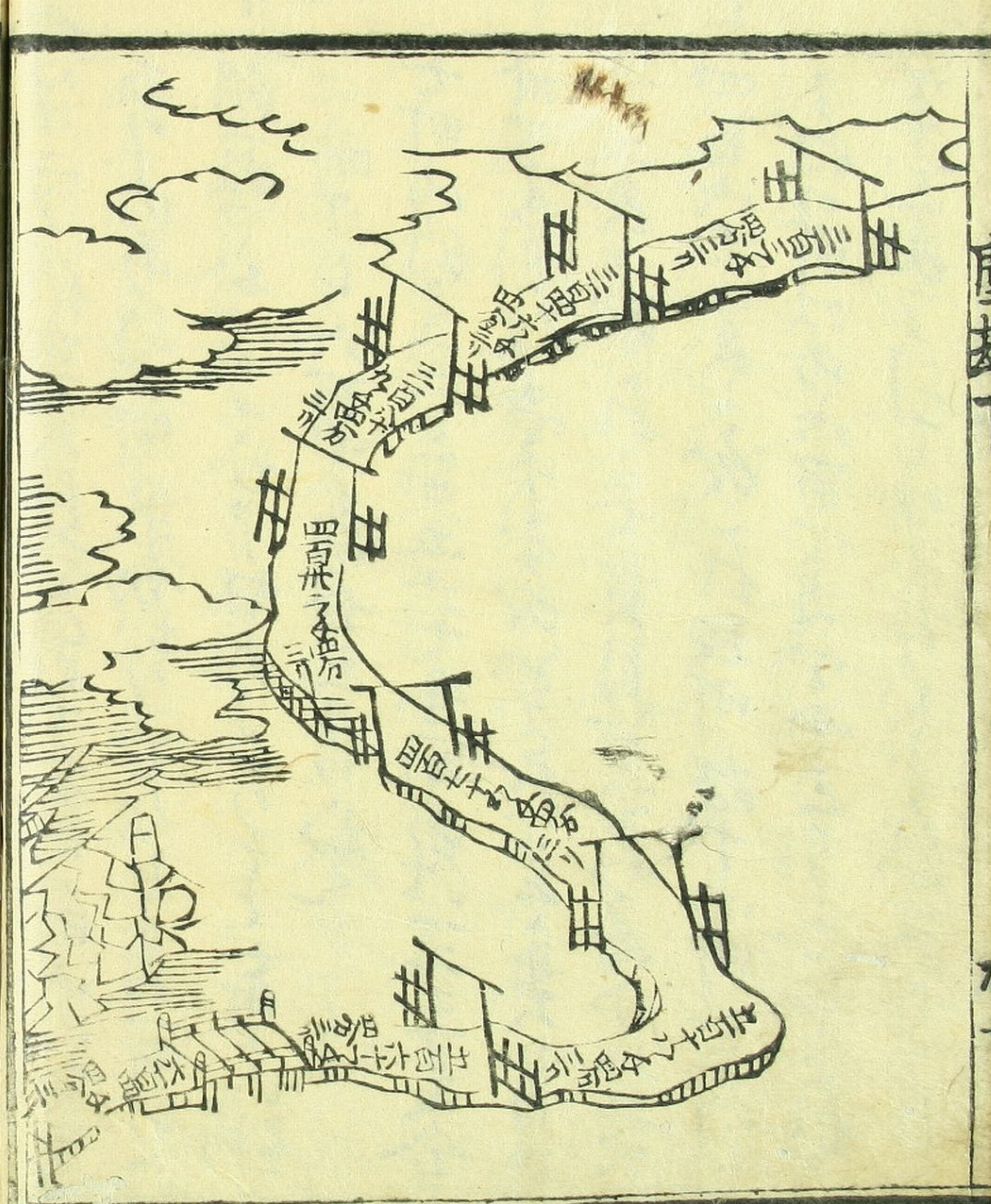
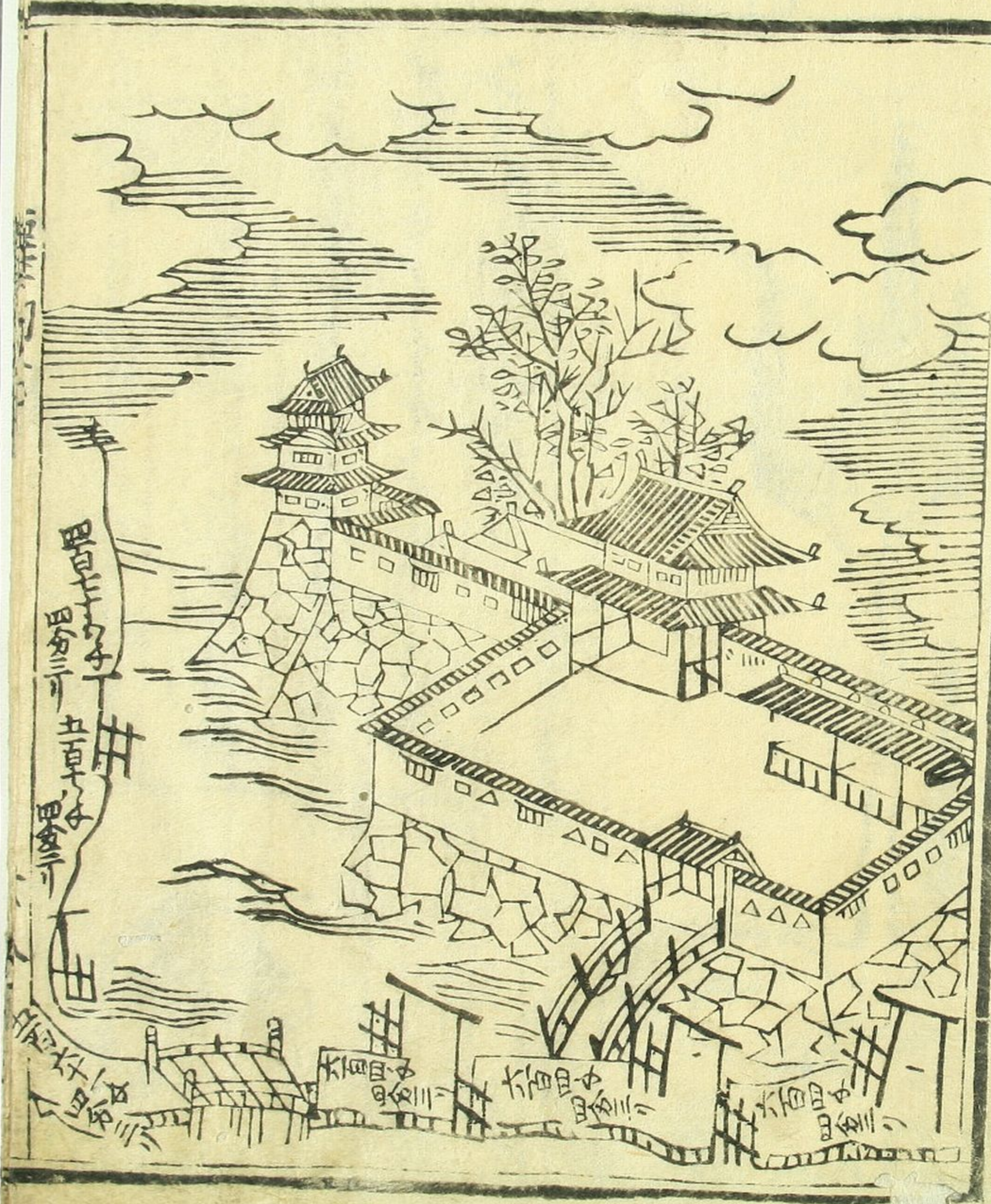
又上大五五百六千人のふんを知時若く百九  
 石六斗二合百六十八人ともつくと又二千五百人  
 ともつくと

リニツ三報廿二費目入と山四七費目八町中(から  
 ありのありは町米分ありらりそと六町て  
 報一牧つおらりてあり町よりらりそと七町と三町  
 町よりら六町と分三リツとぬ

七町のは一二三四五六七三町のは二二三合  
 計でよこれよ字千三とてこれいき費四百六  
 十二とぬこれよ七費目とてよつ時八費  
 四百六十二とぬこれ報町報十町とぬ  
 これ八町以の六百とぬ分三リとぬこれ  
 計十三とぬつりてりらりそとぬ

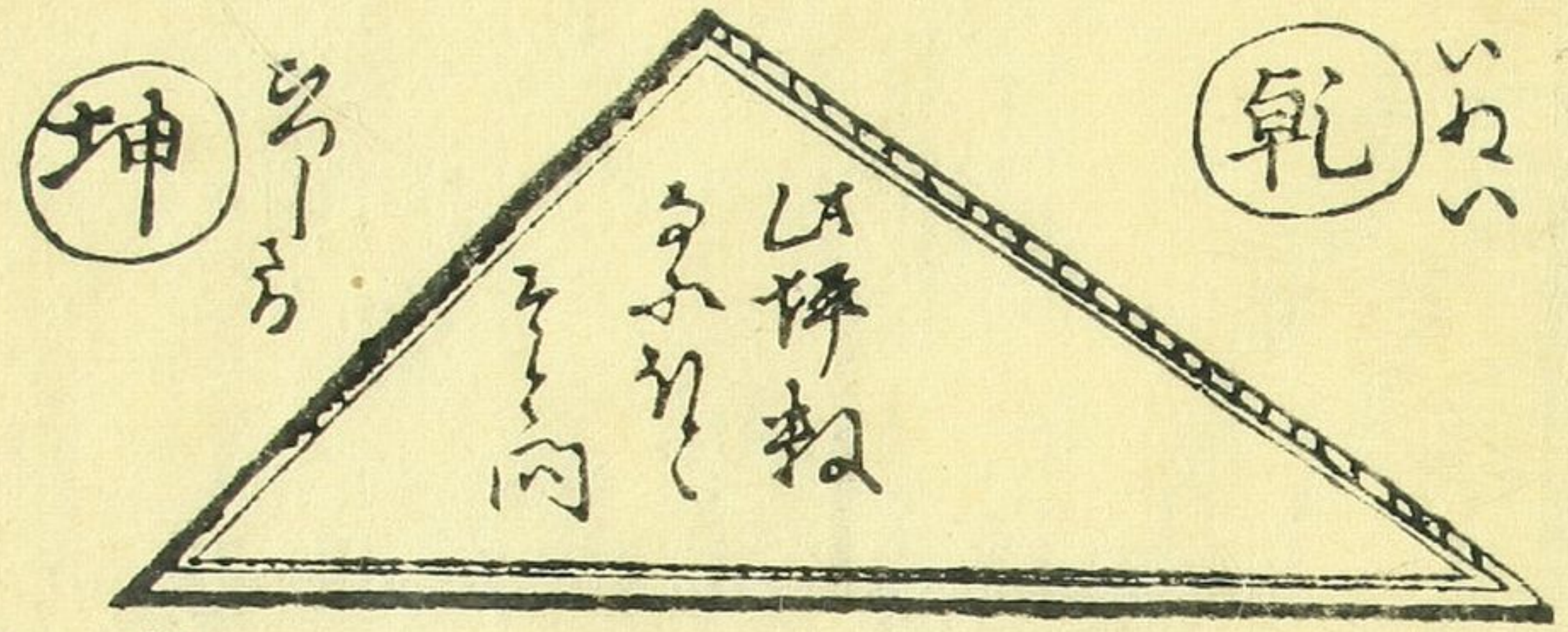
割りの橋







積股勾



東いぬいしらまより二方た  
八十一乃き

又東方長さるふれぞ  
いぬいの方ひらさ同  
ひらさる方ひらさ同

東ひつしきりしらまよりて  
二方た七十二乃き

知長手立

いぬいしらまより二方た  
ひらさる方ひらさ同  
ひらさる方ひらさ同  
ひらさる方ひらさ同  
ひらさる方ひらさ同



塵下

下



四截積

今唐木をさぐると之よりよ本口まより  
 六尺すく口まより二尺五寸あり  
 け代報於牧也三人してくいし  
 三人（おふよ）よりてより時より  
 本よりそのさすよりあり  
 多よりしよりきし同



二級四又

松木 八十本  
 檜木 九本  
 け報合式費七百九十目

松木 百廿本  
 榎木 四本  
 け報合式費三百元目

榎木 九十本  
 栗木 百廿本  
 け報合式費九百二十元目

栗木 百廿本  
 檜木 七本  
 け報合式費百廿九元

右檜木松榎栗  
 け報合式費百廿九元

答

いの木一十本  
 榎木一十本  
 栗木一十本  
 檜木一十本



三級三久

檜木 式本

松木 四本

松木 五本

松木 五本

松木 三本

松木 四本

松木 三本

松木 六本

松木 六本

三久級合式百式松自

三久級合式百七松自

三久級合式百七松自

三久級合式三百目

三久級合式三百目

右檜木松木 三本 付あより

二級三久

きぬ 三正

ぬの 八楳

ぬの 式楳

きや 四巻

きや 三巻

きぬ 式正

け代合式百七松八五分

け代合式百七松八五分

け代合式百七松八五分

け代合式百七松八五分

右ぬのきぬさるやれのく

糸らんりより

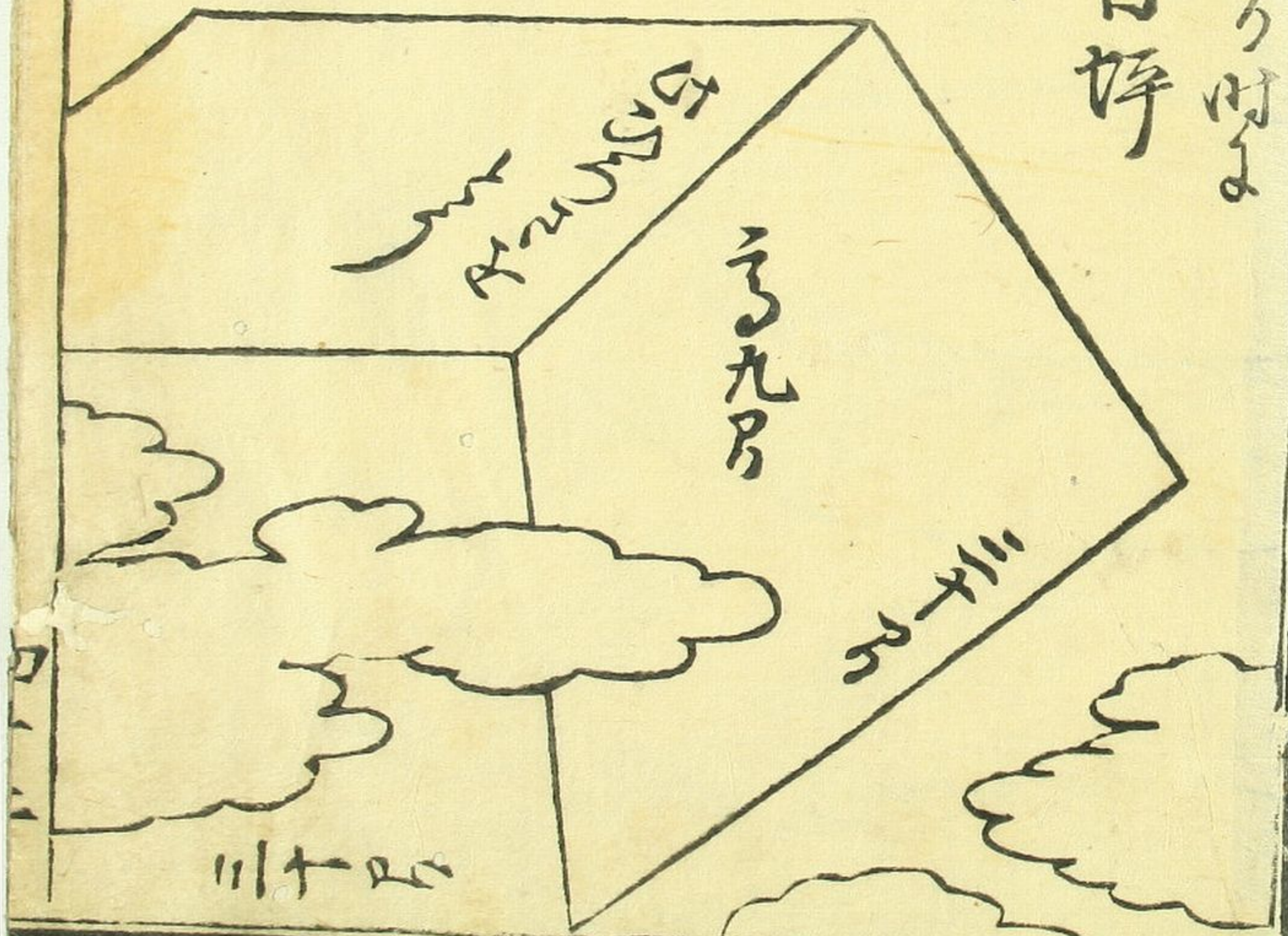


盈胸法

今夕は二疋と上馬五疋と賣つた  
 こんだ十三疋くさんと賣つた小判  
 五疋あまりの又り疋一疋とこんだ一疋  
 うりて上馬三疋賣つて賣れん  
 適是より又上馬六疋とこんだ八疋  
 と賣つて夕疋五疋賣つて賣れん  
 小判とくさんより二疋より  
 右より疋上馬こんだおのく  
 移さんよりおのく  
 右より疋上馬一疋  
 こんだ一疋  
 夕疋

方臺

小よりりせり時よ  
 け五五子六百坪  
 ころけ五よ  
 南よ下成り  
 四方にでる  
 九り天主の  
 土其臺をゆく  
 時よ八上にてん  
 ひらさるおの  
 ころ向

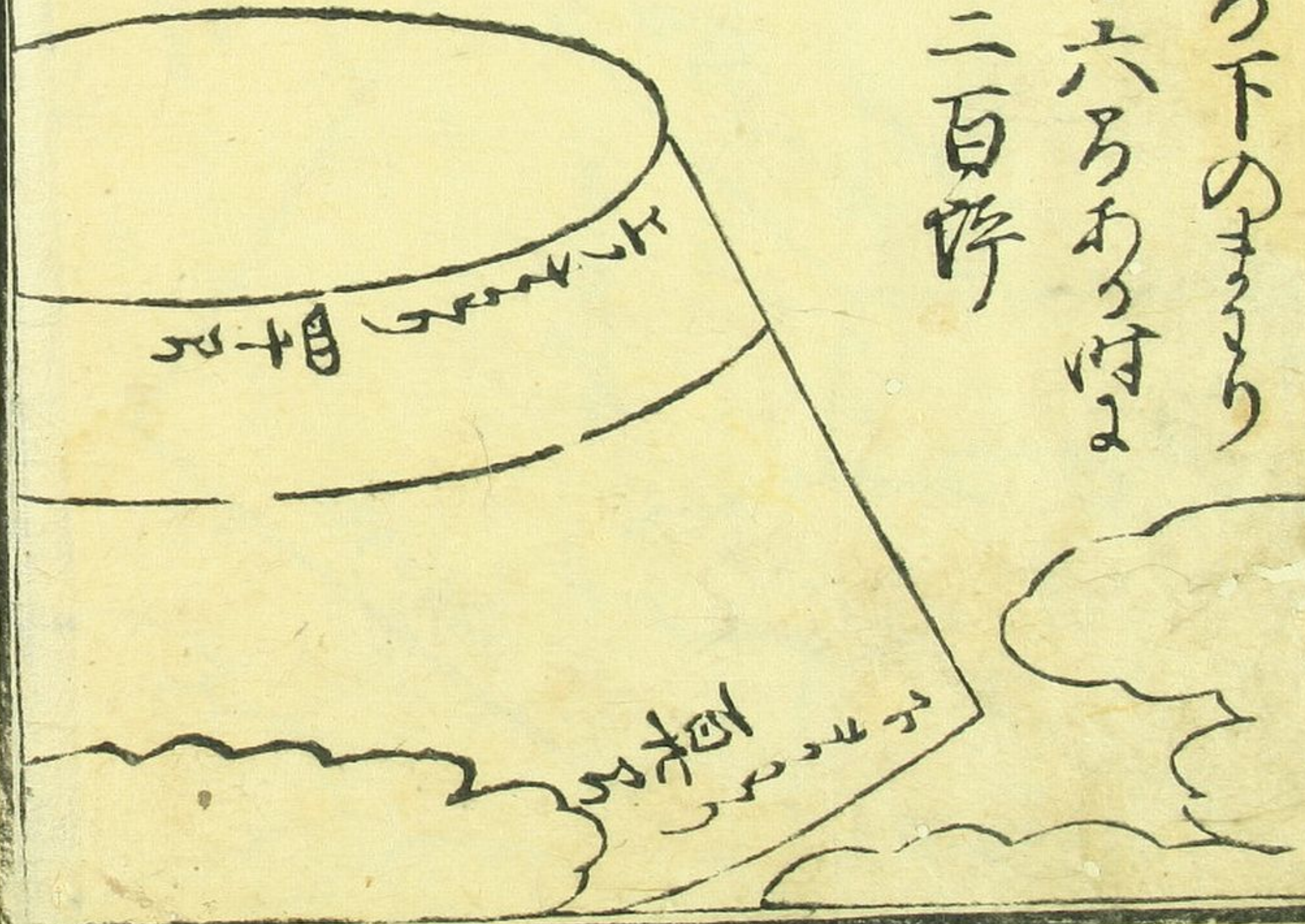


四十一



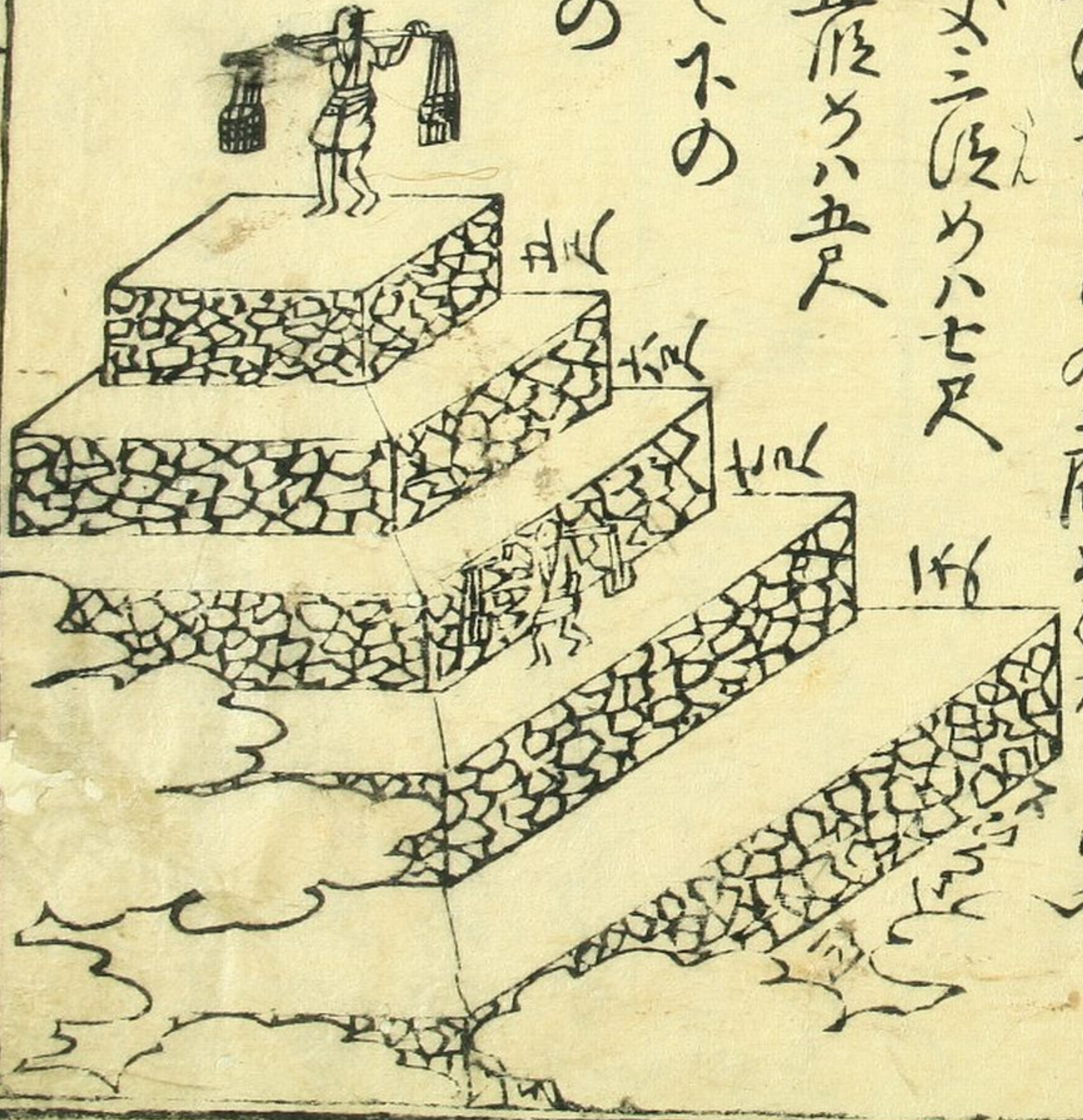
田 臺

上まのりり室十り下のまより  
 百廿りよるのさい六りある付よ  
 けう入にて土千二百坪  
 切てとり付よ  
 上りりるのさい  
 りよりり  
 きりりりり  
 りりりり



栗 石 積

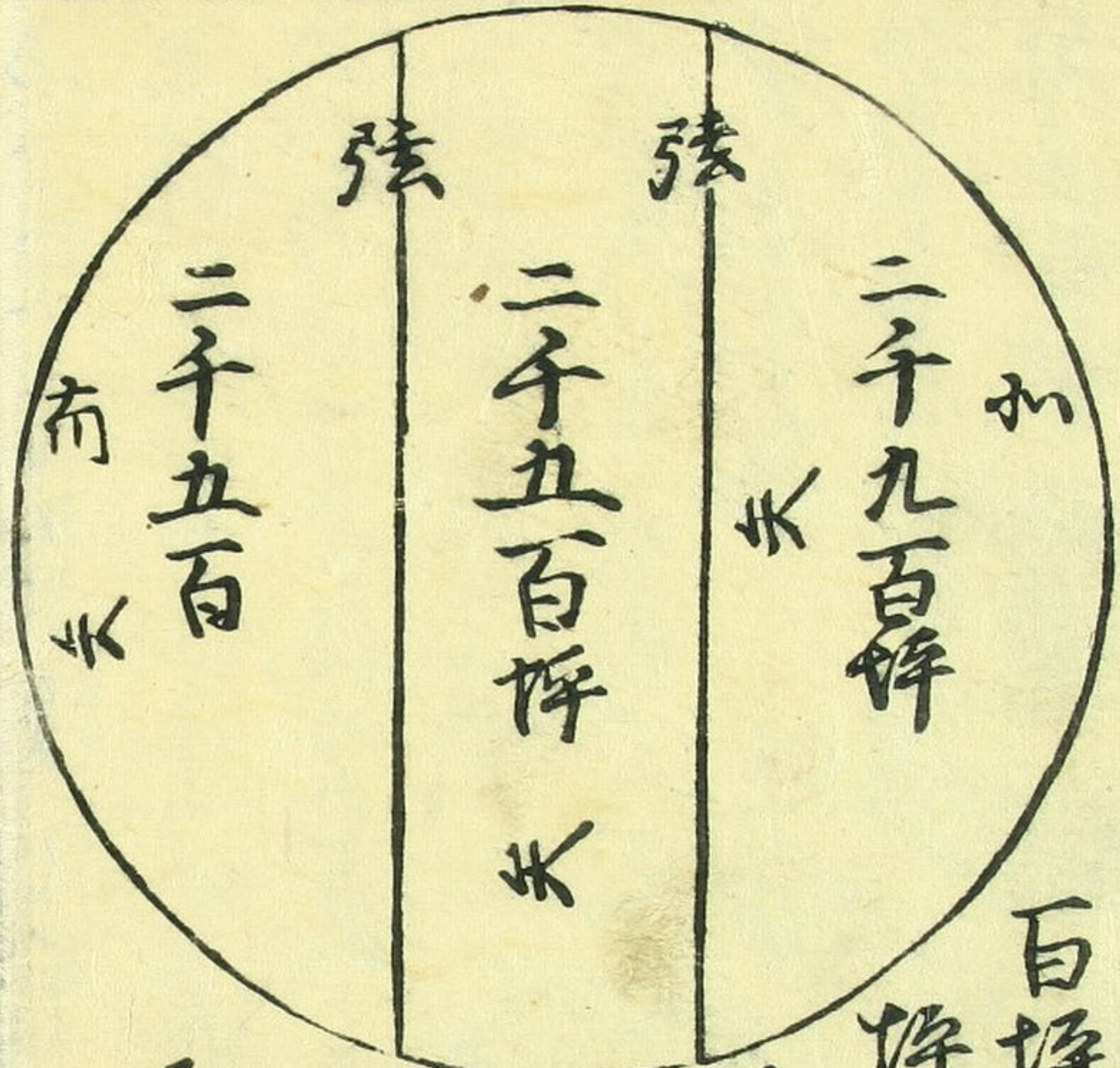
栗石七百五十坪とてその五尺の  
 五倍つとあけ下りりの二層めの天りり  
 のひろさ一丈二尺め八七尺  
 二層め八丈五尺め八五尺  
 めひよつとて下の  
 ひろさ一丈上の  
 ひろさ一丈よ  
 りり四角  
 りりりり



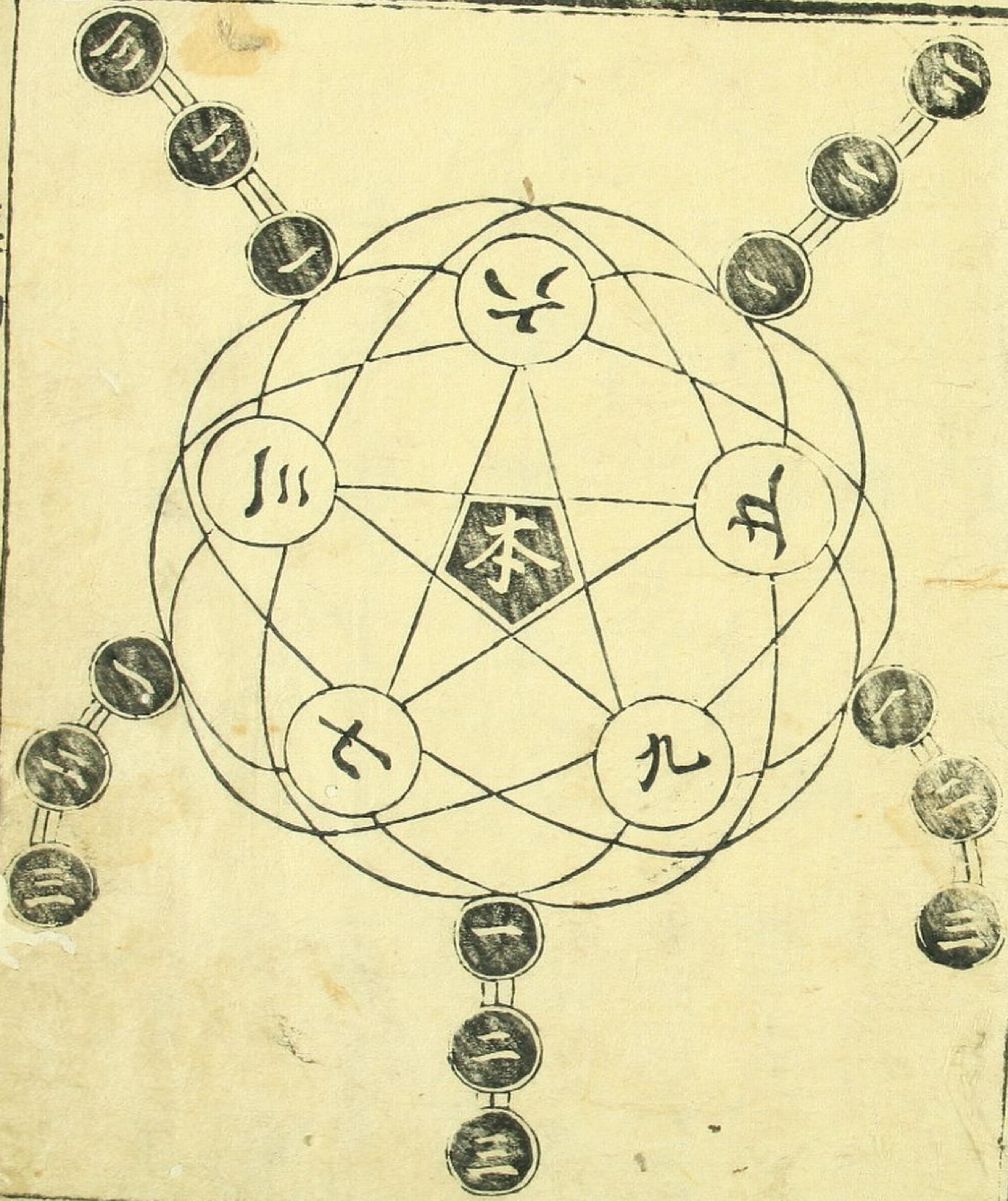


四截積

うりやう百りあの解しきとこを合りて  
 後戻り一人ハ二千九百坪一人三千五



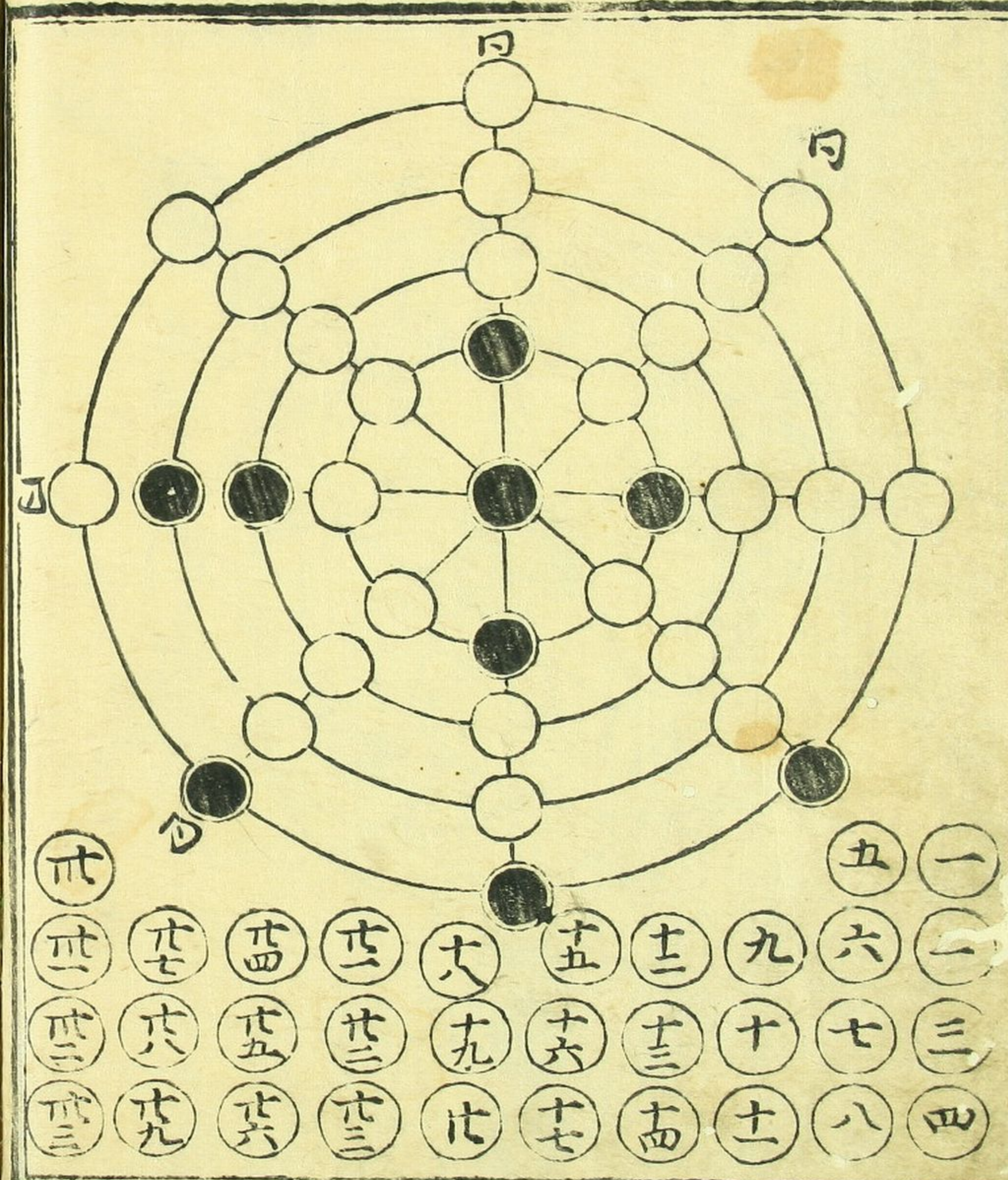
百坪一人三千五百  
 坪ひとり矢のひら  
 さ弦の長ささ  
 りよりそ又  
 中の矢のひらさ  
 弦の長さめく  
 りより同



壺初下

四〇





自是以前世間（これより）よ有塵劫記（あ）者我（わ）忍  
 のまあるうされ或ハたし或ハあけき  
 あるれ其違（ちが）所（ところ）とたして今又新（いま）  
 篇塵劫記（せんじやくき）と名（な）を名（な）つけて板（いた）よひ  
 然（しか）たし書（か）きよも失（あ）わりるん自今（いま）以（も）て世（よ）に  
 行（い）て筆法（ひつぽう）の指南（しゆばん）のるらん者（もの）可（ま）合（あ）附（は）  
 節（せつ）者（もの）也（なり）山城国（やましろのくに）葛郡（くさのぐん）吉田七兵衛尉（きちだしちべゑゐ）  
 澁城村住人（しぶらむらむらじ）

寛永拾八年（えいゑいじゅうはちねん）巳年（しねん）霜月（しもづき）吉言（きちごん）

光由



卷一

一





これは遺題を載せた塵  
劫記の最初の版であり、  
完本である。

小倉金之助



これは遺題を載せた塵  
劫記の最初の版であり  
完本である。

小倉金之助



